

県立高等学校における障害のある生徒と障害のない生徒が共に学ぶ仕組みと、一人一人の教育的ニーズに応じた学びを保障するための
調査研究報告書

令和6年3月

沖縄県教育委員会

目次

I 調査研究の概要

1	調査研究の趣旨	1
2	調査研究の目的	1
3	調査研究の実施期間	2
4	調査研究の対象校	2
5	具体的な調査研究内容	2
6	調査研究に係る協議	2
	(1) 3者連絡会議	2
	(2) 2校連絡会議	3
	(3) その他関連会議	3
7	調査研究の経緯	4

II 調査研究取組の実際（成果と課題）

1	インクルーシブ教育システムの構築をめざした教育実践の取組	8
	(1) 島尻特別支援学校と真和志高等学校との「交流及び共同学習」の取組	8
	(2) ゆい教室と真和志高等学校との「交流及び共同学習」の取組	12
2	ゆい教室に係る教育環境整備の実際	19

III 理解啓発に向けた取組

20

IV 総合考察

21

V おわりに	25
--------	----

【参考資料1】 島尻特別支援学校と真和志高等学校との「交流及び共同学習」 の取組	27
【参考資料2】 調査研究実施に係る生徒・教職員へのアンケート調査結果	40
【参考資料3】 「ゆい教室通信」	51
【参考資料4】 沖縄県立高等学校における沖縄県立特別支援学校高等部分教室 (ゆい教室) 設置に係る調査研究実施要綱	75
【参考資料5】 沖縄県立高等学校における沖縄県立特別支援学校高等部分教室 (ゆい教室) 設置に係る調査研究実施要領	77

I 調査研究の概要

1 調査研究の趣旨

共生社会の形成に向け、インクルーシブ教育システムの構築を図るため、沖縄県立高等学校における障害のある生徒と障害のない生徒が共に学ぶ仕組みと、一人一人の教育的ニーズに応じた学びを保障するための調査研究を行うため、沖縄県立特別支援学校高等部分教室（ゆい教室という。）を設置し、調査研究を実施する。

2 調査研究の目的

沖縄県特別支援教育推進プラン及び県立特別支援学校編成整備計画(令和4年度～令和13年度)では、共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育システムの構築という理念に基づき、障害のある生徒と障害のない生徒ができるだけ同じ場で共に学ぶ環境を整備することは重要なことと考えており、交流及び共同学習の指針及び特別支援学校を含めた多様な学びの場の一層の充実を図ることが必要とされている。

本調査研究事業では、共生社会の形成及びインクルーシブ教育システムの構築に向け、障害のある生徒と障害のない生徒がともに学ぶ仕組みと、一人一人の教育的ニーズに応じた学びを保障するための調査研究を行うため、知的障害の程度が中度・重度である生徒を対象に県立高等学校に「ゆい教室」を設置する。以下の事項について課題等を明らかにし、より効果的な「ゆい教室」の在り方について調査研究することを目的としている。

(1) 共生化の拡大（インクルーシブ教育システムの構築）

ゆい教室に在籍する生徒と高等学校に在籍する生徒が共に学ぶ場所が共有されることで、同年齢の生徒とのつながりをより深めることができるようになる。

(2) 理解啓発の推進

共に学ぶ場所が共有されることで、生徒の意識が深まることにより、高等学校での理解や支援が受けやすく、障害に対する理解が進むようになる。

(3) 障害のある生徒と障害のない生徒の学びを保障

特別支援学校学習指導要領に基づき、高等学校の教育課程と関連させながら、柔軟な教育課程の編成を行うことにより、お互いの学びを保障する指導体制の在り方を研究する。

(4) 特別支援学校のセンター的機能の充実

ゆい教室を設置することにより、設置高等学校及びその周辺地域にとって、特別支援教育に関する相談・支援が身近なものとなり、地域の特別支援教育のセンター的役割を果たすことができる。

(5) 多様な学びの場の拡充

支援の必要な生徒の学びの場の連続性の提供になる。

現在、高等学校在籍の支援の必要な生徒は、通常学級での指導や特別支援教育支援員の支

援を受けている。特別支援学校の分教室を設置することで、中度・重度の知的障害のある生徒に同環境内で障害の状態に応じた多様な指導方法や支援を確保できる。

3 調査研究の実施期間

令和3年4月1日から令和6年3月31日

4 調査研究の対象校

高等学校：県立真和志高等学校

特別支援学校：県立島尻特別支援学校高等部

5 具体的な調査研究内容

- (1) 学びの場の多様性について、関係者の継続的意識調査
- (2) 管理者の異なる学校間の条件整備の在り方
- (3) ゆい教室における教育課程の編成と適正な施設設備及び施設の有効な活用方法
- (4) 特別支援学校（本校・ゆい教室）と高等学校との連携を通じた交流及び共同学習の推進に係る研究
- (5) ゆい教室におけるセンター的機能（高等学校への支援等）の充実
- (6) 実践の課題整理や分析、対応検討
- (7) 調査研究モデル校において研究が必要と捉えている事項の研究

6 調査研究に係る協議

(1) 3者連絡会議

① 目的

- ・交流及び共同学習の実践を図り検証すること、併せて、ゆい教室と県立島尻特別支援学校本校との交流及び共同学習についても実践を図り、検証を行う。
- ・ゆい教室の設置に係る諸手続の在り方や施設設備等の条件整備の在り方について検証を行う。

- ・ゆい教室における教育課程の編成と施設設備を有効に活用する方法を検証する。
- ・分教室の設置が、今後のインクルーシブ教育システムの構築に向けた多様な学びの一つであることを検証し、今後の在り方を提言する。

② 構成委員

教育庁県立学校教育課、県立真和志高等学校校長、県立島尻特別支援学校校長、各校教頭（副校長）

(2) 2校連絡会議

① 目的

ゆい教室に関する2校の連携業務の詳細事項の検討や運営について協議する。

② 構成委員

県立学校教育課指導主事、高等学校教頭及び教諭、特別支援学校教頭及び教諭

(3) その他関連会議

① 高等学校における障害のある人もない人も共に学ぶ新たな仕組みの在り方検討委員会

目的：特別支援学校分教室に関して、幹事会で確認・調整した事項について協議する。

構成委員：教育庁教育指導統括監、関係課課長

② 高等学校における障害のある人もない人も共に学ぶ新たな仕組みの在り方検討委員会幹事会

目的：特別支援学校高等部分教室に関して、作業部会で確認・調整した事項について協議する。

構成委員：教育庁県立学校教育課特別支援教育室長、関係課班長及び指導主事

③ 高等学校における障害のある人もない人も共に学ぶ新たな仕組みの在り方検討委員会作業部会

目的：特別支援学校高等部分教室に関して、モデル事業対象校への説明、交流及び共同学習の実施、教育課程編成、入試業務、設置備品等運営に関わる準備を行う。

構成委員：教育庁県立学校教育課班長、主任及び指導主事、モデル事業対象校教諭

④ 2校運営会議

目的：特別支援学校高等部分教室に関して2校の連携の確認、調整等について協議する。

構成委員：2校の校長、教頭、事務長、必要に応じてPTA役員や教育庁関係課

⑤ 2校連絡調整会議

目的：特別支援学校高等部分教室に関して2校の連携業務の詳細事項の検討や運営について協議する。

構成委員：2校の教頭、教務主任、関係職員

⑥ 特別支援学校高等部分教室小委員会会議

目的：分教室に関して業務の詳細事項や運営について検討する。

構成委員：島尻特別支援学校教頭、教務主任、高等部主事、分教室担当教諭

7 調査研究の経緯

令和2年3月、高等学校における障害のある生徒もない生徒も共に学ぶ新たな仕組みの在り方検討委員会設置から「島尻特別支援学校真和志高等学校分教室（以下、「ゆい教室」という。）」設置までの事業の経緯について次表にまとめた。

時 期	経 過
令和2/3/31	高等学校における障害のある人もない人も共に学ぶ新たな仕組みの在り方検討委員会設置
令和2/4/3	モデル事業の対象校、校長、教頭へ説明 第1回作業部会（メンバー顔合わせ）
令和2/4/10	第2回作業部会（他県の分教室設置状況確認等）
令和2/4/17	第3回作業部会（学校紹介プレゼンテーション確認、県外の取組等）
令和2/4/24	第4回作業部会（学校紹介プレゼンテーション確認、県外の取組等）
令和2/5/1	第5回作業部会（モデル事業対象高等学校への説明会等）
令和2/5/7	①モデル事業対象高等学校への説明会
令和2/5/14	モデル事業対象特別支援学校への説明会
令和2/5/15	第6回作業部会（説明会実施後の質疑、交流及び共同学習ガイド確認等）
令和2/5/22	第7回作業部会（交流及び共同学習対象生徒の実態、県内高等学校の教育課程等）
令和2/5/29	第8回作業部会（分教室の名称、県内高等学校の教育課程等）
令和2/6/5	第9回作業部会（モデル事業対象高等学校の授業参観、生徒への説明等）
令和2/6/8	①高等学校における障害のある人もない人も共に学ぶ新たな仕組みの在り方検討委員会 幹事会
令和2/6/8～12	交流及び共同学習の実施計画に伴う授業参観
令和2/6/17	モデル事業対象特別支援学校の生徒へ高等学校についての事前学習
令和2/6/19	第10回作業部会（授業参観を終えて教科等の検討、6.24学校見学実施要項等）
令和2/6/24	モデル事業対象特別支援学校の生徒、高等学校見学
令和2/6/26	第11回作業部会（交流及び共同学習の進捗状況等）
令和2/7/3	第12回作業部会（6.24学校見学後のアンケート、交流及び共同学習実施要項等）
令和2/7/10	第13回作業部会（交流及び共同学習の進捗状況等） ②モデル事業対象高等学校への説明会
令和2/7/16	②高等学校における障害のある人もない人も共に学ぶ新たな仕組みの在り方検討委員会 幹事会【メール情報共有】
令和2/7/17	第14回作業部会（7.10説明会後意見集約、高等学校生徒へ事前説明等）
令和2/7/21	交流及び共同学習について高等学校生徒へ事前説明
令和2/7/27	特別支援学校校長会へ説明会
令和2/7/28	①交流及び共同学習（器楽、声楽、陶芸、環境造形）

	教育委員会勉強会（高等学校における障害のある人もない人も共に学ぶ新たな仕組みの在り方検討委員会）にて「学びの教室（仮称）」を次年度設置することを報告
令和 2/7/29	モデル事業対象高等学校 PTA 役員へ説明
令和 2/7/30	教育委員会会議にて「学びの教室（仮称）」を次年度設置することを報告
令和 2/7/31	第 15 回作業部会（7.28 交流及び共同学習の成果と課題等）
令和 2/8/14	第 16 回作業部会（8.18 交流及び共同学習確認、志願前相談等）
令和 2/8/18	交流及び共同学習 緊急事態宣言中のため中止
令和 2/8/19	モデル事業対象特別支援学校へ説明
令和 2/8/21	第 17 回作業部会（次回の交流及び共同学習について、教育課程等）
令和 2/8/28	第 18 回作業部会（志願前相談、学校説明会資料、教育課程等）
令和 2/9/1	交流及び共同学習 台風 9 号襲来のため中止
令和 2/9/4	第 19 回作業部会（地区講座における質問、志願前相談周知スケジュール等）
令和 2/9/8	②交流及び共同学習（器楽、声楽、陶芸、環境造形）
令和 2/9/10	教育委員会勉強会（高等学校における障害のある人もない人も共に学ぶ新たな仕組みの在り方検討委員会）にて状況説明
令和 2/9/11	第 20 回作業部会（9.8 交流及び共同学習の成果と課題、生徒・保護者への説明会について等）
令和 2/9/18	第 21 回作業部会（職員、生徒、保護者、オープンスクールにおける説明会等） ③モデル事業対象高等学校への説明会
令和 2/9/24	モデル事業対象高等学校の生徒への説明会
令和 2/9/25	第 22 回作業部会（志願前相談、学校説明会資料、教育課程等）
令和 2/9/28	モデル事業対象高等学校の保護者への説明会
令和 2/9/29	モデル事業対象高等学校オープンスクールへの説明会
令和 2/10/2	第 23 回作業部会（志願前相談、学校説明会資料等）
令和 2/10/9	第 24 回作業部会（志願前相談、入学者選抜試験日程等）
令和 2/10/16	第 25 回作業部会（志願前相談資料、交流及び共同学習(後期)について）
令和 2/10/23	第 26 回作業部会（入学者選抜試験関係資料について）
令和 2/10/30	第 27 回作業部会（入学者選抜試験関係資料について）
令和 2/11/6	第 28 回作業部会（志願前相談、令和 3 年度の年間指導計画、交流及び共同学習について）
令和 2/11/13	第 29 回作業部会（交流及び共同学習、ゆい教室の配置及び設備について）
令和 2/11/20	第 30 回作業部会（交流及び共同学習の最終確認、ゆい教室の配置及び設備について）
令和 2/11/27	第 31 回作業部会（交流及び共同学習の様子とアンケートについて）
令和 2/12/4	第 32 回作業部会（交流及び共同学習の様子とアンケート、教育課程について）
令和 2/12/11	第 33 回作業部会（交流及び共同学習の様子とアンケート、教育課程について）

令和 2/12/18	第 34 回作業部会（令和 3 年度の教育課程、交流及び共同学習について）
令和 2/12/25	第 35 回作業部会（教育課程、年間行事計画、入試業務について）
令和 3/1/8	第 36 回作業部会（入試業務、ゆい教室施設設備について）
令和 3/1/15	第 37 回作業部会（入試業務、ゆい教室施設設備について）
令和 3/1/22	第 38 回作業部会（入試業務、ゆい教室施設設備について）
令和 3/1/29	第 39 回作業部会（入試業務、ゆい教室施設設備について）
令和 3/2/5	第 40 回作業部会（入試業務、ゆい教室施時間割について）
令和 3/2/19	第 41 回作業部会（入試業務、PTA 新聞について）
令和 3/2/25	第 42 回作業部会（入試業務、入学式について）
令和 3/3/12	第 43 回作業部会（合格者オリエンテーション、交流及び共同学習の報告書、4 月の週案・月案、2 校連絡調整会議について）
令和 3/3/19	第 44 回作業部会（教育課程、ゆい教室時間割、2 校連絡調整会議について）
令和 3/3/26	第 45 回作業部会（オリエンテーション、入学式について）
令和 3/5/11	第 1 回 2 校連絡調整会議（現状報告、ゆい教室通信 1 号）
令和 3/6/8	第 2 回 2 校連絡調整会議（現状報告、オープンスクール、教材費、支援者会議について、ゆい教室通信 2 号）
令和 3/7/13	3 者連絡会議（支援者会議、調査研究の進捗状況について）
令和 3/7/13	第 3 回 2 校連絡調整会議（現状報告、ゆい教室通信 3 号）
令和 3/7/29	第 1 回支援者会議（オンライン）
令和 3/8/17	第 4 回 2 校連絡調整会議（現状報告：リモート）
令和 3/9/14	第 5 回 2 校連絡調整会議（現状報告、学校説明会、入試業務について：リモート）
令和 3/10/12	第 6 回 2 校連絡調整会議（現状報告、志願前相談、修学旅行、取材について）
令和 3/11/9	第 7 回 2 校連絡調整会議（現状報告、ゆい教室通信 4 号）
令和 3/12/14	第 8 回 2 校連絡調整会議（現状報告、ロッカー・カーテン、転落防止ネット、交流及び共同学習、学校評価アンケート、ゆい教室通信 5 号）
令和 4/1/18	第 9 回 2 校連絡調整会議（現状報告、入試について：リモート）
令和 4/2/22	第 10 回 2 校連絡調整会議（現状報告、次年度の会議について、ゆい教室通信 6 号）
令和 4/3/17	第 11 回 2 校連絡調整会議（現状報告：リモート）
令和 4/4/19	第 1 回 2 校連絡調整会議（現状報告、ゆい教室通信 4 月号：リモート）
令和 4/5/10	第 2 回 2 校連絡調整会議（現状報告、支援者会議について、ゆい教室通信 5 月号：リモート）
令和 4/5/18	教育長訪問
令和 4/6/14	第 3 回 2 校連絡調整会議（現状報告、ゆい教室通信 6 月号）
令和 4/7/5	第 4 回 2 校連絡調整会議（現状報告、支援者会議について）
令和 4/7/28	第 1 回支援者会議（オンライン）
令和 4/8/15	第 5 回 2 校連絡調整会議（現状報告：リモート）

令和 4/7/28	第 1 回支援者会議（オンライン）
令和 4/8/15	第 5 回 2 校連絡調整会議（現状報告：リモート）
令和 4/9/13	第 6 回 2 校連絡調整会議（現状報告、ゆい教室訪問について：ゆい教室通信 9 月号）
令和 4/10/11	第 7 回 2 校連絡調整会議（現状報告）
令和 4/11/8	第 8 回 2 校連絡調整会議（現状報告、志願前相談について：リモート）
令和 4/12/13	第 9 回 2 校連絡調整会議（現状報告、進路面談、支援者会議について、ゆい教室通信 11 月号）
令和 5/1/10	第 2 回支援者会議（オンライン）
令和 5/2/14	第 10 回 2 校連絡調整会議（現状報告、入試、学校見学について、ゆい教室通信 2 月号、ゆい教室だより）
令和 5/3/14	第 11 回 2 校連絡調整会議（現状報告、年度の会議について）
令和 5/5/9	第 1 回支援者会議
令和 5/6/13	第 1 回 2 校連絡調整会議（現状報告、ゆい教室通信 5 月号）
令和 5/10/10	第 2 回 2 校連絡調整会議（現状報告、学校訪問、取材について、ゆい教室通信 6、7、9 月号）第 1 回 3 者連絡会議
令和 6/1/23	第 3 回 2 校連絡調整会議（現状報告、学校見学、取材、次年度の会議について、ゆい教室通信 11、12 月号）
令和 6/3/14	第 2 回 3 者連絡会議

(4) ゆい教室の在籍状況（生徒数）

年度	分教室名	1 年	2 年	3 年	合計
R3	島尻特別支援学校 真和志高等学校分教室	1	0	0	1
R4		2	1	0	3
R5		1	2	1	4

II 調査研究取組の実際（成果と課題）

I インクルーシブ教育システムの構築をめざした教育実践の取組

1. ゆい教室（県立島尻特別支援学校真和志高等学校分教室）を多様な学びの場として、県立真和志高等学校内に設置。
2. ゆい教室の生徒と真和志高等学校の生徒が、共に学ぶ場所を共有し、障害の有無に関わらず、同年齢や異学年の生徒とのつながりを深めるために交流及び共同学習の実践を検証。
3. 特別支援学校における教育課程と単位制高校で100科目以上の選択科目が開設されている真和志高等学校との教育課程を関連させながら、具体的な交流及び共同学習を展開。インクルーシブ教育システムの構築に向けた検証。
4. 調査研究の目的について、それぞれの成果と課題をまとめ、今後のゆい教室の在り方について検証。

ゆい教室の設置に係る調査研究事業の目的を達成するために様々な取組が進められた。その取組を島尻特別支援学校、ゆい教室を中心に整理し、交流及び共同学習の実施状況や生徒の変容等を整理した。

併せて、調査研究事業における教育行政側の取組として県教育委員会の成果と課題についても整理した。

(1) 島尻特別支援学校と真和志高等学校との「交流及び共同学習」の取組

研究の目的を達成するために、島尻特別支援学校と真和志高等学校の同年代の生徒と相互の触れ合いができ、共同学習できる活動内容を精選し、交流及び共同学習を実施した。

【令和2年度ゆい教室設置に向けた準備段階】

特別支援学校高等部の中度・重度の知的障害の生徒と高等学校生徒との交流及び共同学習を通して

《 概要 》

県立島尻特別支援学校高等部2年生活単元学習Cグループと2年6組17名は、新型コロナウイルス感染防止対策をしながら、県立真和志高等学校との交流及び共同学習を行った。

高等学校の同年代の生徒との交流及び共同学習を通して、障害の有無に関わらず共に学ぶ経験を重ねることで、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会とすることをねらいとして全5回実施した。

① 対象生徒について

今回交流及び共同学習へ参加した生徒は、県立島尻特別支援学校高等部Ⅱ課程－3学習グループC13名とⅡ課程－4学習グループDの4名、計17名である。

Ⅱ課程－3、4は特別支援学校（知的障害）の学習指導要領に基づき編成された各教科等を合わせた指導及び自立活動に比重を置き編成した学習形態のグループで編成されている。

② 活動のねらい

県立島尻特別支援学校高等部では、これまで年に1回交流及び共同学習を近隣校と実施している。2019年に改定された学習指導要領では「障害のない幼児児童生徒との交流及び共同学習の機会を設け、共に尊重し合いながら、協働して生活していく態度を育むようにすること」と示されている。本校でも学習指導要領に基づき、次のように活動のねらいを定め交流及び共同学習を行った。

- (a) 高等学校との交流及び共同学習を通して、障害の有無に関わらず共に学ぶ経験を重ね、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ。
- (b) 同年代の生徒との相互の触れ合いを通じて社会性を養う機会とする。

③ 事前の取組と配慮

実施計画の最初の段階では、年間9～10回行うことを検討していたが、全国的に新型コロナウイルス感染が拡大し、教育現場においても休校を余儀なくされ、難しい状況になった。そのような中でも両校で新型コロナウイルス感染症対策をしながら行える授業内容を検討し、年間の学習や行事等を見通して計画準備を進めていった。

始めに交流及び共同学習実施にあたって、両校の職員向けに学校紹介を行った。高等学校の職員に特別支援学校について知ってもらい、障害のある生徒達への接し方等について共通理解を図れるようにスライドを活用した学校紹介を5月に行った。

次に両校の生徒向けに生活単元学習の事前学習の中で学校紹介を行った。取組計画は参考資料として記載している。

④ 事後の取組

交流及び共同学習終了後には、写真や動画で事後学習を行った。すると、生徒達も授業のことを想起しやすくなり、振り返りの発表も積極的に行うようになった。また、毎回事前学習で立てた目標が達成できたか一人一人振り返りを記入し、発表し合い、お互いのグループの様子を伝え合った。そうすることで他のグループの様子を知ることができ、充実した振り返りの時間となった。

県立真和志高等学校では、授業後にアンケートを毎回実施した。アンケートは参考資料として記載している。

(a) アンケート結果より

お互いにとって意義のある交流及び共同学習となったことが読み取れる。県立真和志高等学校の生徒達は、特別支援学校の生徒達と同じ活動に取組、接することにより、障害について理解し、相手を思いやり認め合う態度が育まれたことがわかる。また、特別支援学校の生徒達は、慣れない場所で活動したり、協力し合ったりすることで経験を積み重ね、社会性を広げたことがわかる。

(b) 行動の変容について

交流及び共同学習を終えた後の学校生活においても島尻特別支援学校の生徒達にも行動の変容が見られた。今まで作業学習の販売の学習で「いらっしゃいませ」「ありがとうございます」の声が小さかった生徒が、はきはきと接客をしたり、一緒に交流及び共同学習に行った級友へ自分から声をかけ会話を楽しんだりしていた。

県立真和志高等学校の生徒達へ向けたお礼の手紙では、ペアだった生徒の顔を思い浮かべながら書きたいことが次から次に湧き出てくるようで、メッセージカードからあふれるほど書いていた。同年代の人と関わる中で、自分の気持ちを伝えることが前よりできるようになった生徒もいた。

全5回の交流及び共同学習をとおして、楽しみがあることで頑張った自分、やる気が湧いてくることを実感できた生徒、学校や家庭に戻ってから何度も話し、語彙が増え、自信がついて発表の声が大きくなった生徒、「私は」という言葉が昨年よりも増え、自分の気持ちを話せるようになってきている生徒、高等学校の生徒との関わりをとおして、同年代のさまざまな生徒を目にしたりすることで「自分」という認識が芽生える一助となった生徒もいた。また、回を重ねるごとにルールを守ったり、気持ちをコントロールしたりすることができるようになった生徒、自然とお互いを認め合い、活動を共にすることで自分の気持ちを表現し合い、お互いを受け入れられるようになった生徒もいた。島尻特別支援学校の生徒達の行動の変容は、職員からも褒められ、評価されることで、更に自信へと繋がり達成感も味わうことができたように感じる。

(c) 保護者の連絡帳より

活動実施時は、保護者からも連絡帳に生徒の様子が記されていた。「明日の交流会をととても楽しみにしています。準備も本人がしています。」「朝も早起き。今日の交流会を楽しみにしているようです。」「交流学习で真和志高校の生徒と仲良くできて良かったです。家も近所なので、ばったり会えたりしたらいいですね。」「交流会が楽しかったようです。手話で自分の名前ができていました。」「『グランドゴルフをしました』とファイルを見せながら教えてくれました。夜中に起きてノートに字を書いていました。」等、生徒達の意欲に満ち溢れた様子が連絡帳から伝わってきた。

⑥ 今後の課題

特別支援学校高等部の中度・重度の知的障害の生徒と高等学校の生徒との交流及び共同学習を終えて今後の課題としては、二点挙げられる。

一つ目は、両校の生徒の情報提供の仕方である。授業の前には学校紹介や生徒の

情報共有を図った。生徒一人一人の実態について特に必要なこと、得意なこと、好きなもの、苦手なこと、接し方や、どのような言葉かけをしてほしいか等をまとめ事前に情報共有を行った。関わりを持つことが多くなればなるほど、さらに状況に応じた情報共有も必要な場面が出てきて、生徒や職員が戸惑うところがあった。両校の職員が場面で対処していけるように職員同士の関わりをどのようにして深めていくかが課題である。そのためには、交流及び共同学習を実施する際に毎回同じ職員配置ができるような体制が必要となってくる。

二つ目は、授業計画についてである。交流としてのねらいは、達成できていると職員、生徒達も感じていることがアンケート等からわかるが、共同学習のねらいと考えた時に特別支援学校の職員からは生徒同士が関わりを持つことで充実していると感じているが、高等学校の職員は、関わりを持つ時間が深まるにつれ、共同学習は難しいと感じることが多くなったことがわかる。今後は、両校が普段の授業の中から、どの単元なら共に活動できるのか精選を行っていくことが大切である。

両校の職員同士が事前準備、授業計画をとおして、生徒にどのような力を身につけたいのか打ち合わせの中で確認をして、お互いの生徒にあった学習活動の場を保障していくことが必要である。効率的に話し合いの時間の確保をしながら次年度も継続していきたい。

これからも交流及び共同学習を継続していくことが、高等部を卒業後、職場や地域で生活をする生徒達の経験に繋がり、同じ空間、同じ時間を共有することがインクルーシブ教育の構築に繋がり生徒達が自然に関わり合える共生社会へとようになっていくのではないかと考える。

(2) ゆい教室と真和志高等学校との「交流及び共同学習」の取組

ゆい教室では、知的障害の程度が中度・重度である生徒で、高等学校での学びを希望する生徒を対象とし、障害のある生徒もない生徒も共に学ぶ仕組みをコンセプトとし、お互いを尊重し、共に支え合う姿勢を育み、共生社会の実現を目指し、令和3年4月から現在まで具体的に交流及び共同学習に取り組んできた。

特別支援学校における教育課程と単位制高等学校で100科目以上の選択科目が開設されている県立真和志高等学校との教育課程を関連させながら、島尻特別支援学校の教育課程編成の方針に基づき生徒の実態に即した教育内容を精選し、可能な限り交流及び共同学習を行った。
〈資料1〉

ゆい教室の生徒の1日の流れで示すように、登校・健康観察後のSHR、昼食後のSHR等連携クラスにて活動を共にする時間を多く設けている。更にLHRや総合的な探究の時間等も連携クラスにて活動を行っている。

ゆい教室の生徒の1日の流れ

8:40 ~ 8:50	登校・健康観察
8:50 ~ 9:00	SHR（連携クラスにて）
9:10 ~ 13:00	共同学習・自立活動・各教科学習
13:00 ~ 13:45	昼食
13:45 ~ 14:15	昼学・SHR・清掃（連携クラスにて）
14:20 ~ 16:10	共同学習・自立活動・各教科学習 （※LHR・総合的な探究の時間も連携クラスにて活動）
16:10 ~	下校

〈資料1〉令和5年度時間割

1年次

時間	月	火	水	木	金
1時間	自立	職業	自立	自立	自立
2時間	数学	職業	数学	理科	家庭
3時間	音楽	社会	体育	美術	英語
4時間	音楽	社会	体育	美術	国語
5時間	自立	国語	LHR	職業	体育1B
6時間	道徳	理科	総探	職業	体育

2年次

時間	月	火	水	木	金
1時間	美術	職業	自立	自立	自立
2時間	美術	職業	数学	英語	家庭
3時間	自立	社会	数学	体育	国語
4時間	理科	社会	情報	体育	国語
5時間	自立	音楽	LHR	職業	理科
6時間	道徳	音楽	総探	職業	職業

3年次

時間	月	火	水	木	金
1時間	体育	職業	自立	自立	自立
2時間	体育	職業	数学	英語	家庭
3時間	自立	社会	数学	音楽	理科
4時間	国語	社会	情報	音楽	国語
5時間	自立	美術	LHR	職業	職業
6時間	道徳	理科	総探	職業	職業

自立:自立活動

※色付き部分は真和志高校との交流及び共同学習 ①体育・音楽・美術は真和志高校1年次と2年次のそれぞれの単位数 ②国語・社会・数学・理科・英語・家庭は、1時間ずつ

※色付きの部分は、ゆい教室の生徒が、真和志高等学校の生徒と一緒に受ける授業

- ①音楽・美術・体育（真和志高等学校各年次の単位数）
- ②国語・社会・数学・理科・家庭・外国語は1時間ずつ。

① 共生化の拡大（インクルーシブ教育システムの構築）

・連携学級（設置高等学校の学級）において、日々のホームルーム活動や総合的な探究の時間、清掃活動、学校行事等、共に活動する機会を可能な限り多く設定し、障害理解をはじめ互いに尊重し合う等の教育の場を設定している。

・特別支援教育のスキルがある教諭が配置され、障害の状態に応じた個別の教育支援計画及び指導計画を作成し、共同学習において一人一人のニーズに応じた教育の充実を図っている。〈資料2〉

〈資料2〉（共同学習の様子）

1. 1年生のみ参加の授業

① 理科・・・【科学と人間生活】物理教室への入室に苦手意識があったため、教科担当教諭と調整し、1番先入室する配慮を行った。すると、落ち着いて入室及び着席することができた。ゆい教室担当教諭が視覚的教材を準備し、イラストを見たり、単元の動画を視聴したりすることができた。板書事項やスクリーンを見ることは難しいが、真和志高校生徒と同様に50分間着席し、机に向かうことができた。プリント配布等で真和志高校生徒とコミュニケーションを図る様子が見られた。

② 音楽・・・【器楽】ゆい教室担当教諭の手添え支援によりヴァイオリンやキーボード等に取り組むことができた。4名1組になって「きらきら星」を合奏するグループ発表会では、真和志高校生徒との演奏に参加することができた。

③ 美術・・・【クラフトデザイン】ゆい教室1年生徒にとって制作物の難易度が高く、教材教具の取り扱いにおける安全性の課題もあり同じ課題には取り組めなかったが、場を共有して制作を行った。教科担当教諭の配慮で、真和志高校生徒が作った作品（額）にゆい教室生徒が描いた作品を飾ることができた。集中力が続かず、立ち歩きや寝そべりなどの行為があった場合は、本人に移動するかを聞いてゆい教室で制作に取り組んだ。

④ 体育・・・【体育IB】教科担当教諭や周りの生徒達から温かい声かけをもらいながら、ゆい教室生徒のタイミングで授業に参加することができた。水泳の授業では、ゆい教室生徒が入水できない状況を見て、真和志高校生徒が「大丈夫だよ。」と声をかけてくれた。ダンス発表会では、ゆい教室担当教諭と手を繋ぎながら「ミッキーマウスマーチ」の曲に合わせてダンスを披露することができた。

⑤ 外国語・・・【コミュニケーション英語Ⅰ】LL教室付近まで移動するが、入室が難しい。ゆい教室生徒のタイミングを見て何度か声かけすると休み時間内に数回入室することができた。興味関心のある動画や教科書を見ながら短時間だが参加できることがあった。

⑥ 連携学級・・・入学して一週間は、連携学級への移動が難しかったり、移動しても教室への入室は難しく廊下から様子を見ていたりする日が続いていたが、宿泊学習後は、朝のSHRへの参加がスムーズになってきた。清掃でゴミ捨て担当をすることで清掃時間には連携学級担任へ「ゴミちょうだい」と喃語で発声し、笑顔でゴミ捨て場まで行くことができた。朝・昼のSHR・清掃、行事等のホームルーム活動を連携学級（4組）と一緒に活動することで所属意識が芽生え「4組4組4組さん」と喃語で発声しながら4組に行きたいことを伝える場面があった。連携学級の女子から「おはよう」や「一緒に行く?」と声をかけてくれることが多くなってきた。

2. 2年生のみ参加の授業

- ① 理 科・・・【郷土の自然】座学では、教科担当教諭の説明を聞いたり、ゆい教室担当教諭の支援を受けたりしてワークシートの記入をすることができた。自然体験活動ではグループのメンバーと一緒に活動し、蝶や土壌の観察及び実験に参加することができた。教科担当教諭が毎授業で様々な配慮をしてくれ授業に参加しやすい雰囲気があった。iPad を活用して真和志高校生徒と同様に Teams 内で課題提出を行うことができた。
- ② 音 楽・・・【沖縄の音楽】三線の授業では、教科担当教諭が構え方や弾き方をチェックしたり、ゆい教室生徒が教科担当教諭へ目標達成表を見せにいたりする関わりが見られた。ゆい教室生徒は支援ツール (iPad での動く楽譜) や簡易工工四を使用することで、みんなと同様に三線練習に取り組むことができた。
- ③ 美 術・・・【美術Ⅱ】文字コラージュの授業では、内容的にわかりやすい課題のため進んで取り組む様子が見られた。ゆい教室生徒から教科担当教諭や真和志高校生徒へ質問するなどして関わりをもつことができた。別々の課題に取り組むこともあり、真和志高校生徒はカービング (島ぞうり)、ゆい教室生徒は水彩画に取組、お互いの作品の鑑賞を行った。
- ④ 体 育・・・【体育2B】準備体操では、ゆい教室女子生徒が自分から前に出て体操係を年間通して務めた。新体力テストでは全種目に挑戦することができた。野球のノックの時は、「次だよー」と配慮する声かけや試合のグループ決めて真和志高校生徒が「一緒にやろう」と声をかけてくれる様子が見られた。実技テストでは、教科担当教諭が声かけをし、チェックをしてくれた。ダンスでは、真和志高校生徒と一緒にグループになり、練習を重ねてダンス発表会で披露することができた。
- ⑤ 連携学級・・・朝の SHR、昼学・昼の SHR・清掃、LHR・総合的な探究の時間、行事等のホームルーム活動を連携学級 (13 組) と一緒に活動することができた。4 月当初から生徒間の関わりが多く見られ、その輪が学級へ広がっていく様子が見られた。ゆい教室の生徒のことを理解しようと教師へ質問する生徒達がいた。清掃時には、真和志高校生徒が「次は何々しよう」と具体的に伝えてくれることで、ゆい教室生徒もスムーズに行動できるようになった。

3. 3年生のみ参加の授業

- ① 理 科・・・【環境の科学】野外での作業時は真和志高校生徒及び教科担当教諭が常に皆と同じように声をかけてくれ、ゆい教室生徒は自分のできる活動に取り組むことができた。学習活動を通して役割分担が自然とでき、真和志高校生徒が抜いた草を「お願いねー」とゆい教室生徒へ声をかけると、かごに入れ、草捨て場まで移動し、所定の場所へ戻ることができた。
- ② 音 楽・・・【器楽】キーボードが好きで、集中して自分の鳴らしたい音を鳴らしたり、自由曲「ダイナミック琉球」のベース音をゆい教室担当教諭の手添えで一緒に演奏したりすることができた。真和志高校生徒がゆい教室生徒に声をかけたり、ゆい教室生徒が真和志高校生徒の側に座って演奏している音を聞いたりする交流があった。
- ③ 美 術・・・【陶芸一般】皆それぞれが制作に集中している。自由制作では、ゆい教室担当教諭がやってみせることで、途中から制作の一部を引き継ぐ形で取り組むことができた。3年男子生徒が、ゆい教室生徒の名前を呼んだり、話しかけたりすることがあった。

④ 体 育・・・【体育3A】真和志 Fit.では、可能な限りの運動（腕立て伏せ、バーピージャンプ等）を自分なりに頑張ってみることができた。新体カテストに参加し、一人で50m走を完走することができた。真和志 Fit.時に「がんばれ」と声をかけてくれる生徒がいたり、「こっちは危ないよ」など必要に応じて声をかけてくれたりする生徒がいた。道具の準備や片付けを真和志高校生徒と一緒にやってくれた。

⑤ 連携学級・・・朝の SHR、昼学・昼の SHR・清掃、LHR・総合的な探求の時間、行事等のホームルーム活動を連携学級（19組）と一緒に活動することができた。連携学級には1年の頃から関わりがある生徒も多く、「おはよう」「元気かー？」と普通に日常会話をしてくれた。それに対して「おはよう」等の返事ができるようになってきた。真和志高校生徒が「俺の一発ギャグを見てくれん？」の声かけをして見せてくれたり、清掃時には「俺の机も寄せてー」と言い、ゆい生徒がそれに応じたりと日常会話や冗談などのやりとりが見られ、交友関係が広がっているように感じる場面があった。

4.2・3年生参加の授業

① 外国語・・・【英語会話】LL 教室で Kahoot!のソフトを活用して、ゆい教室担当教諭と一緒に自己紹介クイズ作りをしたり、自分の行きたい国についてインターネットで検索をしたりとパソコンを活用した授業に取り組むことができた。教科担当教諭や ALT からゆい生徒へ質問をしたり、発表を促したりとコミュニケーションをとることがあった。

5.1～3年生全員参加の授業

① 国 語・・・【国語表現】教科担当教諭とゆい教室担当教諭がチームティーチングで授業を行った。真和志高校生徒とゆい教室生徒がペアになり新聞記事から気になった記事を選んだり、夏休みの思い出を発表し合ったりと同じ課題に取り組んだ。難読語やわからないところはペアの真和志高校生徒からアドバイスをもらったり、ゆい教室担当教諭を介し質問し合ったりしながらコミュニケーションをとることができた。電話の対応の仕方では、実際に Teams の通話機能を活用し、真和志高校生徒が画面越しに名前を呼ぶことでゆい教室生徒がそれに応答していた。

② 社 会・・・【沖縄の歴史】2年生は、問題とスクリーンの映像を確認しながら、選択問題へ答えることができた。ウチナーグチカルタでは、お互いに教え合いながら楽しそうに取り組む姿が見られた。校外学習では、県立博物館・美術館や首里城見学に行き、真和志高校生徒と一緒に行動することができた。

③ 数 学・・・【数学活用】教科担当教諭や真和志高校生徒が声をかけてくれ、一緒にできる簡単な内容では、ゆい教室担当教諭と一緒にコンパスを活用したり、棒を使い、教科書と同じ図形作りに挑戦したりすることができた。カクシリ器で角度を測る学習では、みんなで協力しながら、カーテンまでの角度を測ることができた。ローンや金利の計算の単元では、ゆい教室担当教諭でそれぞれの実態に応じた課題を準備した。数字のマッチング・タングラム・時計・計算、iPad を活用したハノイの塔などの課題に取り組んだ。

④ 家庭・・・【保育基礎】真和志高校生徒と着席した。1年生は入室に少し時間はかかるが参加することができた。TV で映像を観ることに興味を示していた。保育検定造形表現技術の課題である折り紙（魚・鳥・植物）では、2年生は iPad で動画を見ながら折ることができた。時折、ゆい教室生徒から真和志高校生徒へ話しかけることがあった。3年生はゆい教室担当と一緒に取り組んだ。季節行事のクリスマスリース、正月飾り作りでは、教科担当教諭にアドバイスをもらいながら制作活動を行った。

② 理解啓発の推進

- ・ゆい教室通信を発行して、ゆい教室生徒の保護者や真和志高等学校の生徒、職員へ交流及び共同学習の様子を知らせ、理解啓発の推進を図った。両校のホームページにも掲載し、地域へ向けて発信していった。
- ・真和志高等学校で9月に行われるオープンスクールに合わせて県内の中学校へ説明会の案内をし、ゆい教室説明会を中学校教諭向けに行った。
- ・真和志高等学校と島尻特別支援学校の学校評議員会において、日々のゆい教室での交流及び共同学習の様子や取組について説明を行い、ゆい教室についての理解を図った。
- ・年度初めの交流及び共同学習では、ゆい教室の生徒が自己紹介をし、好きなこと、苦手なこと、ゆい教室教諭から関わり方について伝えた。

③ 特別支援学校のセンター的機能の充実

- ・ゆい教室の特別支援教育コーディネーターが、真和志高等学校初任者研修において特別支援教育について説明をし、特別支援教育の推進を図った。
- ・ゆい教室と真和志高等学校の職員が交流及び共同学習をとおして、普段から情報交換することで、多様な生徒達への配慮や支援方法についてすぐに助言ができ、事前に予防的な対応へ繋がり、センター的機能の充実を図ることができた。

④ 多様な学びの場の拡充

- ・交流及び共同学習、全体集会や学校行事、学年レクに参加することで、同年齢や異学年の生徒と相互に触れあう機会ができ、多様な学びの場の拡充に繋がった。

【取組の成果と課題】

成 果

- ① 国語（国語表現）、社会（沖縄の歴史）、数学（数学活用）、理科（科学と人間生活、郷土の自然、環境の科学）、音楽（器楽、沖縄の音楽）、美術（陶芸一般、美術Ⅱ、クラフトデザイン）、保健体育（体育ⅠB、体育ⅡB、体育ⅢA）、家庭（保育基礎）、外国語（コミュニケーション英語Ⅰ、英語会話）、総合的な探究の時間（連携学級）、特別活動（連携学級）、行事等、ほぼすべての学校教育活動において、真和志高等学校と交流及び共同学習に取り組むことができた。
- ② 朝のSHR、昼学、昼のSHR、清掃活動、特別活動、総合的な探究の時間、学年集会、学校行事と交流及び共同学習を行うことで、交流及び共同学習が特別なものではなく、日常的に継続した活動となり、お互いの関わり方の理解が進み、お互いの社会性を伸ばす経験の場となり、自ずと一人一人の社会生活経験の広がりにつながっている様子が見られた。
- ③ 共同学習で、同年齢の生徒に支えてもらったり、活動の様子を見たり、一緒に取り組んだりすることで、ゆい教室生徒の中には、刺激を受けて力を発揮する場面も見られた。
- ④ 真和志高等学校の生徒と職員が進んで声をかけてくれることで、ゆい教室の生徒がのびのびと楽しく授業に参加したり、休み時間にコミュニケーションを取ったりすることができた。

- ⑤ 真和志高等学校の生徒とゆい教室の生徒が交流及び共同学習をとおして、日々一緒に過ごすことで、多様な在り方を理解するようになり、自然に言葉をかけたり、進んで関わりをもったりする行動が見られるようになっている生徒もいた。

課題

- ① 高等学校の教育課程と特別支援学校の教育課程の違い、授業における目標と内容が異なり、共通の目標・内容を含む活動を設定することについて難しいところがあった。
- ② 共同学習の教科の中でも特に国語、社会、数学、理科、英語の座学において、中度・重度の知的障害の生徒が、学習活動に参加している実感、達成感を持ちながら充実した時間を過ごすという観点では、更なる参加の工夫が必要である。
- ③ 座学においては、個別課題をゆい教室担当教諭が工夫して提供するが、自由に体を動かしたり音を出したりなどの体験的な活動内容は設定しにくく、生徒の発達段階や特性、実態にあった学習内容の提供に課題がみられた。
- ④ 急な日程変更があるため、生徒及び保護者への周知やゆい教室の生徒へ見通しを持たせることの工夫が必要である。
- ⑤ 障害の特性上、コミュニケーションの取り方について課題があるため、各々が改善する努力をするとともに、ゆい教室生徒の実態を真和志高等学校の生徒及び職員に、その都度周知していく必要がある。
- ⑥ 交流及び共同学習にスムーズに参加するために、真和志高等学校の各教科担当教諭との授業の事前確認の時間確保が必要である。
- ⑦ 交流及び共同学習を行うことで、お互い触れ合う機会が増え、豊かな人間性を育むことに繋がっているが、共同学習においては、両校の生徒にとって、その時間が学びの場として機能したか教科等のねらいの達成についての確認が必要である。目標達成に向け、支援方法や関わり方、生徒のニーズに合った活動の改善点や課題等を明確にする必要がある。
- これまでの実績からも、座学の教科より音楽、美術、体育、家庭の実技教科の方が、ゆい教室の生徒も真和志高等学校の生徒と同じ課題に取り組める姿が多く見受けられた。
- ⑧ 共同学習における教育課程の編成については、真和志高等学校との綿密な事前調整が必要であり、授業の目標と内容において、単元の共通項目をゆい教室側の個別の指導計画における教科の目標、内容を組織的、計画的に調整、実施、評価していくカリキュラムマネジメントの観点が必要である。

2 ゆい教室に係る教育環境整備の実際（教室等の施設面及び備品等の整備）

令和2年度（ゆい教室設置準備段階）

県立真和志高等学校内にゆい教室を設置するにあたり、教室の確保及び職員室の整備を行った。その際、校内 LAN 環境の整備を行った。

また、教室及び学習スペースに整備されていなかったシャワー室及び洗面台、洗濯スペースの確保など、学習スペースのみでなく、学習に付随する作業スペースや設備の整備を行った。

- ・校内 LAN 接続設定に伴うケーブル資材
- ・シャワーユニット移設、洗面用流し台・洗濯機パン取付
- ・電話機の設置
- ・警備用熱線センサー設置
- ・校内 LAN 接続設定委託

令和3年度（ゆい教室設置1年目）

生徒の安全面への配慮として、ゆい教室の前面ベランダ及び廊下に転落防止ネットの設置。

- ・ベランダ及び廊下転落防止ネット設置
- ・ガス配管工事

令和4年度（ゆい教室設置2年目）

生徒の安全面への配慮として、連携学級前まで廊下の転落防止ネットを延長。

- ・転落防止ネット設置

その他、プール学習での安全面を考慮し、プールを底上げし、水深を浅くするための踏み台（プールデッキ）の整備等も行っている。

Ⅲ 理解啓発に向けた取組

本県においては、平成 26 年 4 月から「沖縄県障害のある人もない人も共に暮らしやすい社会づくり条例」が施行され、共生社会の実現に向けた様々な施策が展開されるなど障害者を取り巻く環境は、大きな変化の時期にあるといえる。沖縄県教育委員会では、インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進の在り方や今後の方向性について、効果的かつ効率的な施策展開を図ることを目的に、様々な検討を重ねてきた。

県立高等学校における障害のある生徒と障害のない生徒が共に学ぶ仕組みと、一人一人の教育的ニーズに応じた学びを保障するための調査研究事業の実施のため、県立真和志高等学校及び県立島尻特別支援学校においては、事前説明会の実施や、作業部会の開催などを通して、両校の職員や関係者との丁寧な調整を行ってきた。

また、『沖縄県特別支援教育推進計画』では、高等学校における学びの場の充実として、中度・重度知的障害のある生徒のための学びの教室（ゆい教室）における学びの場の充実について示してきたところである。更に、『県立特別支援学校編成整備計画』においても共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育システム構築の理念を踏まえつつ、障害の有無に関わらず、共に学ぶ環境づくりのための整備を進めることを示している。

高等学校における学びの場の充実を促進する取組の一環として、ゆい教室においては、共同学習の様々な取組が展開されている。取組の成果として、共に学ぶ場所が共有され、職員や生徒の意識の深まりや障害に対する理解が進むようになったと考える。

県内、全中学校に対しては、入学者選抜地区講座において、県立真和志高等学校ゆい教室についての、対象者や通学区域、出願の手順などの説明及び周知を行っている。

今後は、本報告書の内容や成果、課題等を参考に沖縄型のインクルーシブ教育システムの充実に向けた実践として理解啓発に向けた取組を推進していきたい。

IV 総合考察

1 共生化の拡大（インクルーシブ教育システムの構築）

本県における共生社会づくり（共生化の拡大）の一貫として、インクルーシブ教育システムの構築に向けた「県立高等学校における障害のある生徒と障害のない生徒が共に学ぶ仕組みと、一人一人の教育的ニーズに応じた学びを保障するための調査研究」事業を展開してきた。この調査研究を通して、交流及び共同学習の充実を図り、障害の有無に関わらず同じ場所で共に学ぶ環境の整備を行ってきた。その結果、障害のある生徒もいない生徒も、お互いの学びを保障しながら学習を続けることにより、互いに個性を尊重し、互いの学びを深め合い、互いを認めあう気持ちなどが醸成されてきたと考える。

「国語表現」の授業においては、真和志高等学校の生徒とゆい教室の生徒がペアとなり、共通の課題に取り組む学習環境づくりにより、双方の生徒のコミュニケーションや関わり方への理解の場が図られたことで、共に学ぶシステムとしてのプロトモデルになると考えており、双方での取組が、高等学校でのインクルーシブ教育システムの新たな事例として成果があったと考える。

しかし、アンケートの結果からは、共同学習の課題として、発達段階や障害特性により、時には共同学習に取り組みにくい場面もあるとの意見もあり、共に学ぶ環境整備を進めつつも、全ての関係者が肯定的な意見ではない事も確認できる。

今後も、双方における学びの場の改善として、生徒の発達段階や特性、実態に応じた効果的な学習内容の提供に向けた教育課程の編成の必要性が考えられる。

障害のある生徒もいない生徒も、お互いに学びを保障しながら学習を続けることにより、互いに個性を尊重し、互いの学びを深め合い、互いを認め合う気持ちなどが醸成されてきたと考える。今後の課題として、①分教室の生徒数、②「交流及び共同学習」の効果的な時間設定や学習方法、内容など、発達段階に応じた交流及び共同学習のプログラムの作成、③特別支援学校と高等学校における教育課程の相違や互いの学びを保障するための推進の在り方などについて整理する必要があり、引き続きその課題の改善に向けて継続して検証を図る必要がある。

2 理解啓発の推進

本調査研究事業においては、共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育システム構築の理念を踏まえ、共に学ぶ場の環境づくりを進めてきたことで、共同学習での様々な取組が展開され、共に学ぶ場所が共有され、職員や生徒の意識の深まりや障害に対する理解が進むようになったと考える。また、アンケートなどの考察から学校関係者や保護者等への理解啓発だけでなく、活動を共にした両校の生徒同士が理解を深めることができたことは大きな成果と考える。

今後も継続して、更なる理解啓発のための取組を図る必要があると考える。

3 障害のある生徒と障害のない生徒の学びの保障

インクルーシブとは「包括」「包み込む」などを意味し、インクルーシブ教育とは障害のある子とならない子が、可能な限りともに学ぶ教育のことである。その際、それぞれの生徒が授業内容を理解し、学習活動に参加している実感・達成感をもちながら充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身につけていけるかどうかという最も本質的な視点に立つことが重要となる。

そのような中で、特別支援学校の教育課程と高等学校の教育課程とを関連させながら、教育課程の編成をどの程度まで柔軟にできるのか等、特別支援学校の在籍生徒と高等学校の在籍生徒が、お互いの学びを保障しつつ、共同学習が可能となる指導体制の在り方について研究してきた。

実際の教育課程の編成については、設置校である真和志高等学校及びゆい教室における関係職員の協力体制により、お互いの主張を上手く取り入れながら両校の教育課程を弾力的に運営し、新たな教育課程を再編成できたことが、双方の学びの保障につながったと考える。

真和志高等学校のカリキュラムに合わせ、ゆい教室の柔軟な時間割編成ができたことで、共に学ぶ時間の充実も図られ、ゆい教室生徒の積極的な学習への取組等から社会性の高まりがみられた。一方、真和志高等学校の生徒においても障害理解や自己肯定感の高まりが見られ、共生社会への涵養、人権尊重の意識向上に繋がるなど双方にとって、有意な学びの場となっている。

4 特別支援学校のセンター的機能の充実

現在、自閉症・情緒障害や軽度の知的障害のある生徒が高等学校にも入学している傾向にあり、高等学校においても特別な支援を必要とする生徒が在籍していることから、各学校においては校内支援体制整備の必要性が求められている。特別支援学校高等部分教室設置校である真和志高等学校においても同様に、支援を必要とする生徒も在籍している。

ゆい教室においては、特別支援学校の職員が配置されていることから、専門性のある職員による特別支援学校のセンター的機能を活用しやすい環境にあると考えられる。また、真和志高等学校の職員にとっても専門的知見からの助言をうけやすく、より効果的な生徒支援に繋がることも期待できる。ゆい教室が設置されたことにより、真和志高等学校においては、特別支援教育に関する相談・支援が身近なものとなり、特別支援学校のセンター的機能を果たすことに繋がっている。

今後は、高等学校側で支援が必要と思われる生徒の実態把握やケース会議等において、ゆい教室の職員がコンサルティング等を図る等、日常的に特別支援学校のセンター的機能が果たせるよう、引き続き県教育委員会と課題共有し、相談体制なども含めて三者協議会等で確認していく必要がある。

5 多様な学びの場の拡充

多様性が重視される現代社会では、学びや学校のあり方にもまた、多様性が求められている。多様な学びの場とは、障害の有無にかかわらず、様々な人と関わりながら学ぶことができる場のことである。学校では、通常の学級、通級指導教室、特別支援学級、特別支援学校など、連続性のある学びの場を用意しておく必要があるとされている。基本的な方向性としては、できるだけ同じ場で共に学ぶことを目指すべきであるとされている。

高等学校に中度・重度の知的障害のある生徒を対象とした特別支援学校高等部の分教室を設置するという取組はこれまでに例がなく、多様な学びの場の考え方を拡張し、新たな学びの場の設置を提案する画期的な取組の一つであると言える。

真和志高等学校に特別支援学校の機能を持ったゆい教室を設置することで、個に応じた学びの保障と、障害のある生徒とない生徒が同じ空間、同じ時間を共有する「交流及び共同学習」の充実を図ってきた。

今後の多様な学びの場については、施設を含む教育環境の体制整備、設置校と教育委員会、学校間の連携が強く求められた。今後も、効果的な教育課程の編成作業や交流及び共同学習の充実に向けた体制づくりなど継続的な研究が必要である。

6 今後の取組

- (1) 特別支援学校(本校・ゆい教室)と高等学校との連携を通じた交流及び共同学習の推進に係る研究
- (2) 特別支援学校のセンター的機能(高等学校への支援等)として分教室を活用した相談業務の展開
- (3) ゆい教室における教育課程の編成と適正な施設設備及び施設の有効な活用方法
- (4) ゆい教室の理解啓発のための取組(授業公開等)

V おわりに

県教育委員会は、令和3年4月から令和6年3月までの3年間、「県立高等学校における障害のある生徒もなし生徒も共に学ぶ新たな仕組みの在り方に関する調査研究事業」として、「共生社会の拡大（インクルーシブ教育システムの構築）」、「理解啓発の推進」、「障害のある生徒と障害のない生徒の学びを保障」、「特別支援学校のセンター的機能の充実」、「多様な学びの場の拡充」の検証のため、県立島尻特別支援学校高等部の分教室を県立真和志高等学校内に設置し、その具現化を図る取組を進めてきた。

この3年間をとおして、分教室では、設置高等学校での授業、行事等で設置高等学校の生徒と交流及び共同学習に取り組んできた。その中で、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進や、障害のある生徒と障害のない生徒が触れ合い、交流していく機会が増え、共生社会の形成に向けた望ましい経験へとつながった。

また、設置高等学校の生徒、保護者、教職員への障害者理解を推進することになり、そのことは障害のある生徒が積極的に社会に参加・自立するための環境整備の一つとなっている。

ゆい教室は障害のある生徒が積極的に社会参加・自立をするための環境整備の一つとなっている。また、「多様な学びの場」を設けることは、障害のある生徒と障害のない生徒が共に学ぶという教育の観点からみて、大きな意義があると考えられる。

さらに、設置校内における分教室の生徒と高等学校の生徒との日常的な交流は、両校の生徒の人的な成長に繋がるものと考えている。

教育委員会では、今後とも島尻特別支援学校と真和志高等学校との連携の下、ゆい教室を継続し、引き続き課題等について研究していく。

【参考資料1】 島尻特別支援学校と真和志高等学校との「交流及び共同学習」 の取組	27
【参考資料2】 調査研究実施に係る生徒・教職員へのアンケート調査結果 . . .	40
【参考資料3】 「ゆい教室通信」	51
【参考資料4】 沖縄県立高等学校における沖縄県立特別支援学校高等部分教室 (ゆい教室) 設置に係る調査研究実施要綱	75
【参考資料5】 沖縄県立高等学校における沖縄県立特別支援学校高等部分教室 (ゆい教室) 設置に係る調査研究実施要領	77

【 参考資料 Ⅰ 】

(1) 島尻特別支援学校と真和志高等学校との「交流及び共同学習」の取組

研究の目的を達成するために、島尻特別支援学校と真和志高等学校の同年代の生徒と相互の触れ合いができ、共同学習できる活動内容を精選し、交流及び共同学習を実施した。

【令和2年度ゆい教室設置に向けた準備段階】

特別支援学校高等部の中度・重度の知的障害の生徒と高等学校生徒との交流及び共同学習を通して

《 概要 》

県立島尻特別支援学校高等部2年生活単元学習Cグループと2年6組17名は、新型コロナウイルス感染防止対策をしながら、県立真和志高等学校との交流及び共同学習を行った。

高等学校の同年代の生徒との交流及び共同学習を通して、障害の有無に関わらず共に学ぶ経験を重ねることで、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会とすることをねらいとして全5回実施した。

① 対象生徒について

今回交流及び共同学習へ参加した生徒は、県立島尻特別支援学校高等部Ⅱ課程－3学習グループC13名とⅡ課程－4学習グループDの4名、計17名である。

Ⅱ課程－3、4は特別支援学校（知的障害）の学習指導要領に基づき編成された各教科等を合わせた指導及び自立活動に比重を置き編成した学習形態のグループで編成されている。

② 活動のねらい

県立島尻特別支援学校高等部では、これまで年に1回交流及び共同学習を近隣校と実施している。2019年に改定された学習指導要領では「障害のない幼児児童生徒との交流及び共同学習の機会を設け、共に尊重し合いながら、協働して生活していく態度を育むようにすること」と示されている。本校でも学習指導要領に基づき、次のように活動のねらいを定め交流及び共同学習を行った。

(a) 高等学校との交流及び共同学習を通して、障害の有無に関わらず共に学ぶ経験を重ね、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ。

(b) 同年代の生徒との相互の触れ合いを通じて社会性を養う機会とする。

③ 事前の取組と配慮

実施計画の最初の段階では、年間9～10回行うことを検討していたが、全国的に新型コロナウイルス感染が拡大し、教育現場においても休校を余儀なくされ、難しい状況になった。そのような中でも両校で新型コロナウイルス感染症対策をしながら行える授業内容を検討し、年間の学習や行事等を見通して計画準備を進めていった。

始めに交流及び共同学習実施にあたって、両校の職員向けに学校紹介を行った。高等学校の職員に特別支援学校について知ってもらい、障害のある生徒達への接し方等につ

いて共通理解を図れるようにスライドを活用した学校紹介を5月に行った。

次に両校の生徒向けに生活単元学習の事前学習の中で学校紹介を行った。取組計画を下記に示している。

〈 取組計画 〉

実施日	主な活動内容
5月1日	県立島尻特別支援学校の紹介（県立真和志高等学校の職員向け）
5月7日	県立真和志高等学校の紹介（県立島尻特別支援学校の職員向け）
6月17日	前半事前学習①（県立島尻特別支援学校の生徒向け） 県立真和志高等学校へ掲示するポスター作り
6月24日	県立真和志高等学校見学
7月13日	両校の職員間事前打ち合わせ
7月21日	前半事前学習①（県立真和志高等学校の生徒向け）
7月22日	前半事前学習②（県立島尻特別支援学校の生徒向け）
7月27日	職員間前日打ち合わせ①
7月28日	第1回交流及び共同学習（前半） 陶芸A 環境造形 器楽 声楽
7月29日	第1回交流及び共同学習事後学習（前半）
8月25日	職員間事前打ち合わせ②
9月7日	第2回交流及び共同学習の事前学習③（前半）
9月8日	第2回交流及び共同学習（前半） 陶芸A 環境造形 器楽 声楽
9月9日	第2回交流及び共同学習の事後学習（前半）
11月5日	学習グループD事前学習④（後半） グランドゴルフ
11月10日	両校職員間事前打ち合わせ②
11月11日	学習グループC事前学習④（後半） ペットボトルボウリングのセンターピン作り
11月12日	学習グループD事前学習⑤（後半） グランドゴルフ（学習グループD）
11月17日	後半県立真和志高等学校生徒向け事前学習
11月18日	学習グループC事前学習⑤（後半） ペットボトルボウリング
11月18日	後半職員間前日打ち合わせ③
11月19日	学習グループC事前学習⑥（後半） グランドゴルフ
11月24日	第3回交流及び共同学習 スポーツⅡ（グランドゴルフ）・手話
11月25日	第3回交流及び共同学習の事後学習

12月1日	第4回交流及び共同学習 スポーツⅡ（グランドゴルフ）・手話
12月2日	第4回交流及び共同学習事後学習
12月3日	学習グループD事前学習⑥（後半） ペットボトルボウリング
12月7日	事後学習（窯業班）お礼のプレゼント作り
12月8日	第5回交流及び共同学習 スポーツⅡ（ペットボトルボウリング） 手話
12月9日	第5回交流及び共同学習の事後学習（動画、写真を見ながら振り返り）
12月16日	全日程を終えての事後学習（お礼の手紙を書こう）
12月23日	お楽しみ会を兼ねた事後学習ペットボトルボウリング（学習グループC）

〈 生徒への配慮 〉

交流及び共同学習を始めるにあたって、お互いの学校を知ることから始めた。「学校見学に行こう～」という生活単元学習の中で最初に、交流及び共同学習をする県立真和志高等学校の職員に来校してもらい、事前学習を行った。(図1)

そして次に、学校見学に行く前に県立真和志高等学校へ掲示するポスター作りに取り組んだ。(図2)ポスターには、見学に行く日時を記入し、「学校見学に行きます。よろしくお願ひします。」と書いたり、バスの絵を描いたり、学校見学へ行くことを生徒達がイメージしながら取り組んだ。事前学習を行うことで生徒達が初めての場所で戸惑うことなく活動を円滑に実施するための配慮である。

県立島尻特別支援学校の生徒達への配慮だけでなく、県立真和志高等学校の生徒達や交流及び共同学習する職員へも活動のねらいを明確にして生徒達の理解を深めてもらうために県立真和志高等学校でも学校紹介や生徒の情報共有を図った。

参加する生徒17名一人一人の実態について特に必要なこと、健康状態、得意なこと、好きなもの、苦手なこと、支援方法、どのような言葉かけをしてほしいか等をまとめ事前に情報共有を行った。

また、交流及び共同学習をしていく中で、生徒の言葉や行動の意味、気持ち、その背景等を必要に応じて担当職員が説明をして、生徒同士が理解し合えるように配慮した。

両校の活動のねらいを明確にし、活動を通して子ども達のねらいが達成されたか事後学習において一人一人振り返りを行うようにした。

生徒達が主体的に活動できるような事前学習を実施。まず、交流及び共同学習をする場所の写真や活動内容、活動の流れのスライドを見せ、一人一人が交流及び共同学習ノートに目標を記入することで、見通しを持てるように工夫した。

前半の交流及び共同学習は陶芸A、環境造形、声楽、器楽(指導案掲載)の4つの選択授業の中で行われた。(※報告書には器楽のみ参考として記載、④活動の様子と成果参照)

生徒17名のグループ分けは、生徒達が得意なこと、ふだんの授業の延長の学習内容等、日頃から授業で関わりのある担当職員と相談をしながら決定し、生徒達へ事前学習の中で、グループ発表をした。PDCAサイクルを意識し、交流及び共同学習を終えるごとに県立真和志高等学校と県立島尻特別支援学校の生徒、職員から事後アンケートを取り、改善点を確認して次の授業に生かしていくようにした。回を重ねる中で自ずと課題が見え両校の生徒が自然に触れ合えるような学習の機会の場を設定できるように徐々に改善していった。



図1 高校職員による事前学習



図2 ポスター作り

④ 活動の様子と成果

前半2回（7月28日、9月8日）は、県立真和志高等学校の陶芸A、環境造形、器楽、声楽の4つのグループに分かれて活動。生徒達が、ふだんとは違う場所で環境の違いを受け入れ入室できるか心配された。入室に時間がかかる生徒もいたが、全員入室し、授業に参加することができた。

陶芸Aでは、「面シーサー作り」に取り組んだ。（図3）この活動の中で、生徒の変容が見られた。ふだん授業の中で手が汚れるのが苦手な生徒が、土を触ってシーサー作りをしていた。県立真和志高等学校の生徒とお互いに言葉をかけ合ったり、観察し合ったりする中で自然と土を触ることができていた。授業後の別れ際には、県立真和志高等学校の生徒が「また、一緒に勉強しようね。」と声をかけ、県立島尻特別支援学校の生徒も嬉しそうな様子で、2回目の交流及び共同学習に向けて意欲的に授業に参加する姿が見られた。



図3 陶芸：シーサー作り

環境造形は、「島ぞうりアート」に取り組んだ。（図4）生徒それぞれデザインをして完成作品を鑑賞し合う授業を行った。作品鑑賞会では、お互いに作品を見せ合い、県立真和志高等学校の生徒が「すごい個性的で、独創性を感じる」「すごい派手でおしゃれ。めちゃくちゃ目立ちそう」という感想を発表していた。自分の作品を褒めてもらった県立島尻特別支援学校の生徒は、「大変嬉しい」と満足している様子だった。他の県立真和志高等学校の生徒達もそれぞれの造形を素直に肯定し、交流及び共同学習できたことを「貴重な体験だ」と発表していた。



図4 環境造形：作品鑑賞の様子

本校の生徒の感想では、県立真和志高等学校の生徒の島ぞうりを見て「夏らしい」「非常に上手」と賞賛し、「（作品を）見ることができて良かった」と発表していた。感想を述べ合うことで会話も生まれ、お互いの距離が縮まっていくように感じた。

器楽では、車椅子の生徒がおり、真和志高等学校みらい福祉科の生徒達が車椅子を4階まで運んでくれた。車椅子の生徒と最初に挨拶をする時には、中腰になり、視線を合わせて挨拶をしていた。（図5）みらい福祉科の職員は、「階段での車椅子の上げ下ろしはどうやってやるんだった？」と生徒へ声をかけ、既習内容の確認をしながら、実際に車椅子を運んでいた。



図5 みらい福祉科の生徒

器楽の授業は「情熱大陸の合同演奏」を行った。生徒達はそれぞれの楽器を楽しみながら演奏し、積極的に授業に参加している様子が見られた。（図6）演奏を終えた後には、ガッツポーズをする姿が見られ、達成感を味わう様子がうかがえた。



図6 器楽：ギター練習

声乐「手話ソング」では、お互いの学校で習っている手話ソングを教え合ったり、発声練習をしたり、グループに分かれてパート練習を行ったりした。(図7)パート練習では、「Aパートまで覚えましょう」と職員が指示すると緊張しながらも徐々に慣れ、お互いに手話ソングを教え合い「次のパートまで覚えたい」という発言があり、主体的に取り組んでいる様子が見られた。



図7 声乐：手話ソンググループ練習

前半の交流及び共同学習では、「特別支援学校の生徒達が楽しんでいる様子が見られ、交流することの意義が感じられた。しかし、共同学習の側面に関しては、お互いをどう認め合いながら、授業を進めていくかが課題。」という言葉が両校の職員から挙げられた。また、「両校の生徒がもっと関わりを持てるように、次回は職員がもっと見守る姿勢が良い」等、実際の授業を通して次の授業に関する課題点も明らかになり、後半の授業計画に向けて改善を図った。

後半(11月24日、12月1日、12月8日)は、スポーツⅡと手話の2つのグループに分かれて授業を実施。

【参考資料】器楽指導案(略案)

生活単元学習「県立真和志高等学校との交流及び共同学習」

日 時：令和2年7月28日(火)

3校時 11時10分～12時

対 象：高等部2年C・Dグループ

場 所：県立真和志高等学校 器楽室

1 題材名 「情熱大陸の合同演奏」

2 題材設定の理由

高等学校の同年代の生徒との交流及び共同学習「情熱大陸の合同演奏」を通して、障害の有無に関わらず共に学ぶ経験を重ねることで、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会とする。

3 題材の目標

科目	器楽
学習目標 (真和志)	・ 器楽に関する専門的な学習を通して、楽曲の表現内容を理解し、表現意図を明確にして、創造的に表現する能力を養う。
学習目標 (島尻)	・ 楽器の扱い方を知ることができる。(知識・技能) ・ 曲想に合わせて、表現を工夫することができる。(思考・判断・表現) ・ 同年代の生徒や仲間と共に表現活動に取り組むことができる。(学びに向かう力、人間性等)

4 生徒の実態及び目標、手立て、評価

◎：達成できた ○：達成できつつある △：継続支援

生徒	実態	個人目標	指導及び支援上の留意点	評価
A	<ul style="list-style-type: none"> テンポ良く踊ったり、曲の雰囲気を感じ取って指揮の真似をしたりする。 教師の合図を意識しながら、スティックを使いハイハットシンバルを叩くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 演奏箇所を覚え、曲の流れに乗って楽器を鳴らすことができる。 友達と合わせて楽器を演奏することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が楽器の奏法やリズムの手本を見せる。 繰り返し練習を行い、曲の流れが把握できるようにする。 	
B	<ul style="list-style-type: none"> 教師の合図を意識して小太鼓を叩くことができる。 繰り返し練習することで四分音符と八分音符の交じったリズムを叩くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 演奏箇所を覚え、曲の流れに乗って楽器を鳴らすことができる。 友達と合わせて楽器を演奏することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が楽器の奏法やリズムの手本を見せる。 繰り返し練習を行い、曲の流れが把握できるようにする。 	
C	<ul style="list-style-type: none"> 強弱やテンポを意識してタンバリンを叩くことができる。 両手でツリーチャイムを優しく鳴らすことができる。 教師の真似をして鳴らすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 鍵盤の印を見ながら曲の流れに乗って楽器を鳴らすことができる。 友達と合わせて楽器を演奏することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 鍵盤が判別しやすいように付箋やシール等で鍵盤に印を付け確認する。 教師が手本を見せながら一緒に繰り返し練習を行う。 	
D	<ul style="list-style-type: none"> 優しくツリーチャイムを鳴らすことができる。 簡単なリズムに合わせて楽器を鳴らすことができる。 強弱を意識して楽器を鳴らすことができる。 友達が楽器を鳴らしている時に、自分も鳴らしたくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の合図に合わせて楽器を鳴らしたり、止めたりすることができる。 友達と合わせて楽器を演奏することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> リズムや演奏する動きが覚えやすいようにオノマトペを付ける。 教師が手本を見せながら一緒に繰り返し練習を行う。 	
E	<ul style="list-style-type: none"> 強弱や拍を意識してタンバリンを叩くことができる。 合図に合わせてサウンドブロックを鳴らすことができる。 好きな楽器を選び、教師の真似をして鳴らすことができる。 友達が楽器を鳴らしている時に、自分も鳴らしたくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の合図に合わせて楽器を鳴らしたり、止めたりすることができる。 友達と合わせて楽器を演奏することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> リズムがとりやすくなるように演奏する箇所の前に手を振り上げる動作を見せたりカウントしたりする。 教師が手本を見せながら一緒に繰り返し練習を行う。 	

5 授業計画 (全4回 4時間)

1	7月28日(火)	顔合わせ、合わせる曲の確認、楽器決定、各自練習
2	8月18日(火)	練習する部分の確認、各自練習、全体合わせ
3	9月1日(火)	これまでの流れの確認、練習する部分の確認、各自練習、全体合わせ
4	9月8日(火)	1曲通して各自練習、全体合わせ、まとめ演奏(録音予定)

6 授業の流れ (第1回 7月28日)

時間	学習活動	指導上の留意点	備考
導入	1 交流及び共同学習について説明と挨拶 2 本時の学習内容の確認 目標書き 目標：自分の演奏楽器を決める	・出席確認を行う	
展開	3 合奏曲の確認 4 使用楽器の確認 ギター、キーボード、ベース、打楽器 5 自分の担当楽器を決める 実際に触って確認し楽器を決定 6 各自練習	・ipad音源を使って部分的に聴かせる。 ・使用楽器による演奏も行い、曲の中でどういう役割を果たすかイメージさせる。 ミニギター：A、B キーボード：C タンバリン：D カホン：E	キーボード、ミニギター、カホンは真和志高校から借用 タンバリンシール
まとめ 5分	7 楽器ごとに起立させて確認する 8 次回から本格的に練習に入ることを予告		

7 新型コロナウイルス感染予防のために行うこと

手洗い、手指消毒、マスク、座席は一定間隔を保持

⑤ 事後の取組

交流及び共同学習終了後には、写真や動画で事後学習を行った。すると、生徒達も授業のことを想起しやすくなり、振り返りの発表も積極的に行うようになった。また、毎回事前学習で立てた目標が達成できたか一人一人振り返りを記入し、発表し合い、お互いのグループの様子を伝え合った。そうすることで他のグループの様子を知ることができ、充実した振り返りの時間となった。

県立真和志高等学校では、授業後にアンケートを毎回実施した。アンケートを下記に載せている。

(a) 県立真和志高等学校生徒アンケート

※アンケートの意見については、回答者の意見を尊重する意味で、原文のまま記載しています。

前半 事前説明会

1. 交流及び共同学習の説明について
① よく分かった (25/29名) ② よく分からない (4/29名) ③ 良くなかった (0/29名)
2. 島尻特別支援学校の生徒との交流及び共同学習について、どのように思いますか。
<ul style="list-style-type: none">・楽しみです。いろいろな人たちと交流をしたいので、とてもいい機会だと思いました。・とても良いと思います。どちらも楽しめる学習時間になれば良いと思います。・支援学校の方に対する考えを変えるきっかけになると思うので、すごく良い学習になると思います。・色々な視点や感じ方を学べるいい機会だと思いました。・「みんなちがって、みんないい」の言葉のように、理解し合って交流学习ができればいいです。・会話が難しそう。 ・初めてだから緊張する。
3. 島尻特別支援学校の生徒と、どのように接していきたいですか。
<ul style="list-style-type: none">・明るく優しくゆっくりと話をしたりしたいと思います。分かりやすく話そうと思う。・楽しく交流が出来たらいいなと思っています。 ・他の生徒と変わらず普通に接したい。・思いやりをもって、いつも通りに接していきたいです。・自分から積極的に声をかけていけるようにしたい。

前半 第1回・第2回

1. 「第1回 交流及び共同学習」について
① 良かった (13/34名) ② よく分からない (21/34名) ③ 良くなかった (0/34名)
「第2回 交流及び共同学習」について
① 良かった (32/36名) ② 良くなかった (4/36名)
<第1回>
<ul style="list-style-type: none">・みんなの個性が理解できるきっかけになったと思うから。・みんな個性豊かで、一緒に居てすごく楽しかったです。・个性的な生徒が、頑張って楽しく楽器を演奏していて、こちらも負けずに練習する事ができた。
<第2回>
<ul style="list-style-type: none">・いろいろな人と交流が出来た。・グループで教える・教わるって形があって、動きやすかった。手話ジェスチャーなので伝えやすいし、見て教わりやすかった。・少しだけ話すことができ、教えることもできたこと。・授業を進めていく中でお互いに協力し合いながらすることができた。・楽しく交流ができた。・自分たちより手話が上手ですごいなーと思ったし、教えられたらすぐ覚えて一緒にやってくれたから良かった。・同じ環境で同じ授業を受けられるのはいいと思う。・今まで練習してきた曲の中で1つレベルの高い曲を共同で楽しく覚える事ができたので良かった。・来てくれた生徒たちが楽しそうだった。・机が少しジャマだったかも。距離、声が伝わりづらかった。・何を言えばいいかわからなくて、教えるときに何も言えなかった。・緊張していたかもしれないけど、話しかけてもあまり反応がなかった。・あまりコミュニケーションをとることができなかった。
2. 島尻特別支援学校の生徒と一緒に授業を受けて、どのように思いましたか。
<第1回>
<ul style="list-style-type: none">・楽しかったです。 ・1人1人の個性を生かして授業をしていたと思います。・とてもいい子たちでまた一緒に授業したい・個性豊かでにぎやかな生徒たちだなって思いました。・いろんな人がいて、一人ひとりの個性がはっきりしていた。・楽器を一生懸命練習していて良いなと思った。 ・いろいろな人がいるなあと思いました。
<第2回>
<ul style="list-style-type: none">・一人ひとりの個性がハッキリしているなあと思った。

<ul style="list-style-type: none"> ・話した事がない人、普段会わない人との交流っていいと思った！自分の人見知りさが分かったので、次はもっと積極的に話しかけよ！って思った。 ・初めての時は、あいさつと自己紹介しかしなかったけど、2回目で話したり一緒に何かできたのでよかった。もっと時間があればなと思った。 ・仲良くなれてたのしかった。 ・一緒に手話ソングをやって楽しかった。手話ソングをしているときの島尻の生徒の顔が笑顔で楽しそうで、いい顔をしているなと思った。 ・とても楽しかったです。 ・特別支援学校との交流が自分には今までなかったので、とてもいい時間だと思いました。 ・みんな真面目にやってくれたので、自分も真面目に授業を受らけたし、手話とかも教えたりと楽しかったです。 ・前回よりも島尻の生徒と話す機会が設けられていて、楽しくする事ができたと思う。 ・学校の環境がちがって、ふれ合う時間が少なくても、音楽や手話を通して会話やコミュニケーションがとれるんだと思いました。 ・いろいろな個性があり、自分達が受け入れないといけない。 ・特に何も思わなかった。
<p>3. 島尻特別支援学校の生徒と、今後どのように接していきたいですか。</p> <p><第1回></p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通にいつも通りに接していけたら良いと思います。 ・生徒に不安な気持ちにならないようにゆっくり優しく接していきたい。 ・校内で困っていたりしたら、同じ授業をとっている仲間としてやさしく声をかけてあげたいです。 ・楽しくやさしく接していく。 ・よく分かん。 <p><第2回></p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと話をしたりして、仲を深めていきたい。 ・相手に自分の意見がちゃんと伝わるように接していきたいと思う。 ・普通の人と変わらず普通に接していきたい。 ・一緒にまた何かしていきたい。笑顔で優しく接していきたい。 ・変わらず接していきたいです。 ・できる限り、コミュニケーションをとって、恥ずかしがらずに普通に接していきたいです。 ・相手が接しやすいようにしたい。 ・楽しく仲良く接してみたいです。 ・また機会があれば共同学習をしてみたい。
<p>4. 交流及び共同学習について聞きたいことや、一緒にやってみみたい授業等があればお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に絵を描いたりして交流したい。 ・グループで歌、発表とか。 ・歌をフルで歌いたいです。 ・ちょっとしたゲーム？的なのをやってみたい！ ・体育や体を動かす事をやりたいです。

後半 事前説明会

<p>1. 交流及び共同学習の説明について</p> <p>① よく分かった (25/31名) ② 少し分かった (6/31名) ③ 分からなかった (0/31名)</p>
<p>2. 島尻特別支援学校の生徒との交流及び共同学習について、どのように思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しそう。とってもいい経験になりそう。早く会って交流したい。 ・あまりこのような機会がないので、すごくいい経験になると思った。 ・とても良い機会だと思います。 ・交流会を通して仲良くなれたらいいです。 ・少し楽しみの反面、不安。 ・色々な生徒がいて大変そうだった。あと、ちゃんと話が出来るか心配。 ・自分達と少し違う人との交流なので少し不安な点もある。 ・特別支援学校の生徒たちとの共同学習はしたことがないので、少し不安なところもあるので、緊張します。 ・支援学校の人たちと一緒に勉強したりとか、初めての経験なので、とても楽しそうだし、将来のためにもとても良い機会だと思いました。 ・私は初めて島尻特別支援学校の方と授業するので、どのように接していけば良いか分からないけど、楽しく積極的に関わりたいと思う。
<p>3. 島尻特別支援学校の生徒と、どのように接していきたいですか。</p>

- ・優しく接していきたい。
- ・障害者目線問わず同じ人間として優しく接していきたい。
- ・思いやりの心を持って、優しく接していきたい。
- ・仲良くなれるようにしたい。優しく接する。 ・ゆっくり一緒にペースで接する。
- ・普通に接したいです。
- ・私の考えと相手の考えが違って、戸惑うときやどうしたらいいかわからないときがあったりするけど、相手のペースを考え、私たちみんなで、楽しく、助け合い、面白かったと思える共同学習にしたいです。 ・緊張せずに、積極的に関わりたいです。

後半①・②・③

1. 「交流及び共同学習・後半①」について
 ① 良かった (24/30名) ② よく分からない (6/30名) ③ 良くなかった (0/30名)
 「交流及び共同学習・後半②」について
 ① 良かった (25/25名) ② 良くなかった (0/25名)
 「交流及び共同学習・後半③」について
 ① 良かった (40/43名) ② 良くなかった (3/43名)

- <後半①>
 ・交流が出来て接し方もある程度分かった。 ・鳥尻の生徒の良さが分かった。
 ・こんな機会はないので、交流が出来て良かった。
 ・おもしろい人たちが多くて、楽しかった。
 ・なんか考え方が個性的でおもしろかった。
 ・手話を自分から考えていて、すごい良いなと思った。
- <後半②>
 ・ダンスがちょーうまかった。ゴルフもうまかった。
 ・ペアで協力してグランドゴルフをできたのでよかった。楽しかったです。
 ・楽しく交流できて良かった。
 ・思ったより話せた。 ・お互いの気持ちを考えながら行動できた。
 ・普通に話せて楽しかった。
 ・今回もみんなで楽しくプレイすることができた。
 ・前よりも楽しくグランドゴルフができてよかった。
 ・たくさんおしゃべりしながら、ゴルフができて楽しかったです。
 ・交流しながら、楽しくグランドゴルフをすることができたのが良かった。
 ・前回と比べたら、だいぶ話せるようになりました。
 ・前より、積極的に参加していて楽しくできた。
- <後半③>
 ・楽しく話が出来た。
 ・鳥尻の生徒と一緒に協力して楽しくやれた。
 ・サポートしながら楽しくできたのが良かった。
 ・コミュニケーションをとることができた。 ・鳥尻の子と仲良くなれた。
 ・一緒に授業を受けた鳥尻特別支援学校の生徒の伝えたいことが分かった。
 ・自分から鳥尻特別支援学校の子に話しかけ、楽しみながら受けれた。
 ・普段は関わることが出来ないような子たちと一緒に授業をするのは貴重な体験になりました。
 ・グランドゴルフみたいに同じ条件でやっている方が楽しそうだった。
 ・うまく関われなかった。

2. 鳥尻特別支援学校の生徒と一緒に授業を受けて、どのように思いましたか。

- <後半①>
 ・自分も笑顔になれて、とても楽しかった。
 ・口数は少ないが、うまく出来たときに喜んでいるのがうかがえたのがよかった。
 ・色んな人が居て少し混乱したけど、接しているうちに楽しくなっていた。
 ・すなおでいっしょうけんめいだなと思いました。
 ・いい子がいっぱいいると思いました
 ・とても楽しくいつもと変わらずにできたと思います。
 ・最初は、どんなだろうな、どうやって話しをすればいいのかなとか、いろいろ悩んだけど、鳥尻の人もたぶん同じ気持ちだなと思い、私たちがすすんで話し、楽しくやっていたら、相手も話をしてくれたり、とても楽しかったです。

- ・色々な人がいていいなと思った。
- ・うまく話せるか心配だったけど、グランドゴルフをする中でどんどん打ち解けた
- ・関わることになれていなくて会話をするのが難しかった。
- ・手話をとっても楽しそうにやってて、まー、普通の子だった。
- ・とても楽しかったです。真央さんとかは、積極的に意見を出していて、すごいと思いました。
- ・2人とも自分から名前を書いたりしていて、緊張しているのにすごいと思いました。また、積極的に手話していて、いいなと思いました。楽しかったです！！
- ・2人ともすてきな子たちだったし、笑って楽しくできて楽しかった。

<後半②>

- ・楽しかったです。
- ・これからちょっと障害を持っている人ともちゃんと関わればいいなと思った
- ・島尻の子は、みんな明るくてけっこう楽しかった。また、このメンバーで何かやりたい。
- ・島尻の子たちと一緒に授業を受けて、皆普通の子たちだなと思った。
- ・〇〇くん、〇〇くん、〇〇くんのまた新しい一面が見れて、とてもうれしかったです。
- ・相手もはずかしながら話してきてよかったです。
- ・とてもおしゃべりが好きなんだと感じて、仲良くなることができてよかった。
- ・なんで一般人が、自分と少しちがう子たちを拒否するのか、いまいち分からないと思った。
- ・個性を持っていて、みんなちがってみんないいなって思った。また一緒にスポーツしたいです！
- ・グループの子が楽しくゴルフをしているのを見てうれしかった。一生懸命頑張っている姿がとってもかわいかった。
- ・とても楽しくできました。教える立場になって、どう伝えれば分かりやすいとか色々考えてできたので、自分の手話にも役立ちました。
- ・前より話すことができたのでよかった。
- ・やっぱり、指の動きがぎこちないところもあったけど、練習するにつれ動きがなめらかになったのが、すごく伝わってきて、凄いなと思った。

<後半③>

- ・特別支援学校の人たちは、とても優しくいいなと思いました。
- ・とても楽しかったです。
- ・交流をしてから知らなかった世界を見ることができて勉強になった。
- ・一緒に楽しむことができた。
- ・自分たちもいろいろ勉強になったなと思った。 ・協力し合うことは大事だと思った。
- ・仲良くなれたから、また一緒にやりたいと思った。
- ・とても楽しくて、偏見の心をすてられました。
- ・島尻の生徒は、明るくおもしろい子が多く、こっちまで楽しくなる。
- ・人それぞれいろんな人がいて、その人に合わせて会話をしたり接したり、大変だったけど、とても楽しかったです。
- ・感情を表に思いっきり出して喜んだり悔しがったりしている姿が、とても可愛く見えた。
- ・相手のペースに合わせてあげるのも大事だと改めて感じた。
- ・特別支援学校の生徒と関わる機会が出来たのが良かった。
- ・とても楽しかったし、普通の人と一緒にだなんて思った。
- ・発想力や個性があって刺激を受けました。

3. 島尻特別支援学校の生徒と、今後どのように接していきたいですか。

<後半①>

- ・もう少ししゃべれるようにしたい。 ・優しく接したいです。
- ・今日と同じように友だちのように接していきたい。
- ・自分から声をかけていきたいと思った。 ・今と変わらず接していく。
- ・次はお話ししながら交流したい。 ・今までよりもたくさん話したい。

<後半②>

- ・仲良くできるように、自分から積極的にコミュニケーションをとる。
- ・今回より、もっと仲良くなりたい。 ・もっと自分から話しかけたらいいなと思います。
- ・次の室内ボウリングでも、みんなと楽しく競い合えたらいいなと思います。
- ・声をちゃんとかけられたので、これを活かしてボウリングの時もこのようにしたい。
- ・今日と同じように、お互いに声をかけあう。 ・今日よりも、楽しく笑顔で接したい。

4. 交流及び共同学習について聞きたいことや、一緒にやってみみたい授業等があればお願いします。

- ・障害者と思わず、1人の人間として考えるようになりました。
- ・今までと変わらず優しくしようと思った。 ・もともと、特に偏見などない。
- ・けっこう変わったなと思ったし、普通に話せるなと思いました。
- ・健常者と同じ接し方でも大丈夫なんだと分かった。 ・素直な子が多くて良かった。
- ・関わってみたら、みんな普通の人だと思った。 ・障害のある人でも楽しく話せるということ。
- ・積極的にサポートするというのが大事だと分かった。
- ・良い方向に考えるようになった。
- ・その人の個性をしっかり受け入れて、人間みんな同じ生き物だから、お互い理解して、助け合えていけたらいいと思いました。
- ・障害があるからどうのこうのじゃなくて、同じ人間だからこそ、平等に接し、思いやりの心を持つことが大事だと思った。
- ・特に障害のある人に変な偏見があるわけではないので、変わるとかはいいです。
- ・差別しない。
- ・普段は関わるのがあまりないからか、おしゃべりは出来なかったけど、障害のある人に対する接し方とか、これから改めて考えていこうと思いました。
- ・特に大きく変わったことはないけど、改めて皆それぞれ個性があると感じた。

5. 来年度4月から、「ゆい教室」が設置されます。「ゆい教室」の生徒と、どのように関わっていきたいと思いますか。また、卒業予定の生徒は、卒業後に障害のある人と、どのように関わっていきたいと思いますか。

- ・楽しくやっていきたい。
- ・コミュニケーションをとっていけたら、とてもいいなと思いました。
- ・差別などはしない。
- ・手伝えることはする。
- ・友だちになりたい。
- ・優しく、相手の立場を考えて接していききたいです。
- ・同じ人間としてみていきたい。
- ・困っていたら助けたいと思いました。
- ・私がサポート出来るころはして、一緒に仲良くできたらいいなと思った。
- ・その人の個性をしっかり受け入れて、人間みんな同じ生き物だから、お互い理解して、助け合えていけたらいいと思いました。
- ・友だちと関わるのと同じようにできたらいいかなと思います。
- ・普段の授業でも一緒に参加して、楽しみながら関わりたいです。
- ・周りの人と同じように接していききたい。一緒に楽しい学校生活を送りたい。
- ・手話を勉強しているので、今後役立てたいと思っています。耳の障害じゃない障害者と関わる時も普通に人と関わるのと同じように接したいです。
- ・障害があるからと差別したりすることはしないで、障害がない人とも同じように接したり、できるだけ優しくしながら関われるようにしていくことを心がけようと思いました。
- ・特に何も変えず、今までと同じように関わっていきたいとは思いますが、色々なタイプの子や個性があることをふまえて関わっていきたいと思います。

【 参考資料 2 】

調査研究実施に係る生徒・教職員へのアンケート調査結果

※ 回答者の意見を尊重する意味で、原文のまま記載しています。

<生徒へのアンケート>

1. ゆい教室の生徒と一緒に授業を受けての感想をお聞かせください。(5月実施)



	R 3		R 4		R 5	
① 良いと思う	80 人	70.2%	171 人	75.6%	174 人	83.7%
② 気になる	6 人	5.3%	19 人	8.4%	10 人	4.8%
③ その他	28 人	24.5%	36 人	16.0%	24 人	11.5%
計	114 人		226 人		208 人	

感想

① 良いと思う

- ・ 共同学習を通して交流できると思うから。
- ・ 一緒に受けることで、私たちが理解しやすい。
- ・ さほど気にならないし、普通の生徒と変わりはないと思う。
- ・ いつも元気なところと、この教室が明るくなるから。
- ・ 色々勉強になると思うから全然良いと思う。私の弟も同じような感じだから、その点も含め、周りの人にも理解が増えたらいいなと思うから。
- ・ 一緒に授業を受けた方がいい経験になると思う。
- ・ 一緒にやって楽しいし、和やかになるから。
- ・ 社会に出たらいろんな人と接するから、いいと思う。
- ・ 学びは制限されるべきではないから。
- ・ 多様性を受け入れているから。
- ・ なごやかになる。
- ・ 同じ人間。

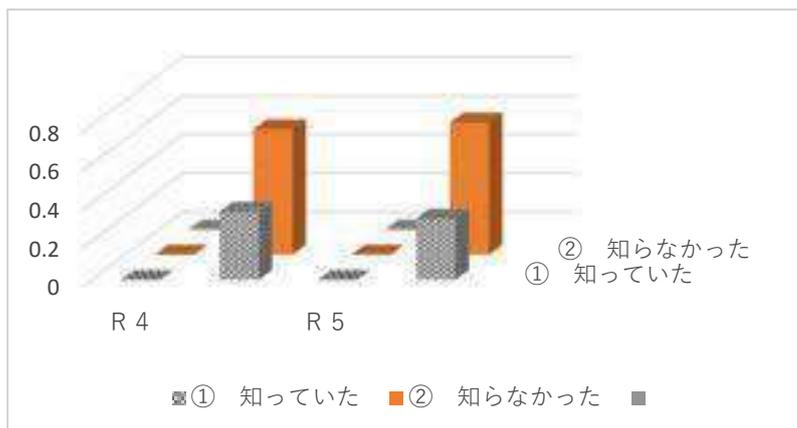
② 気になる

- ・ どんな感じで接していいのかわからなくて少し気になります。

③ その他

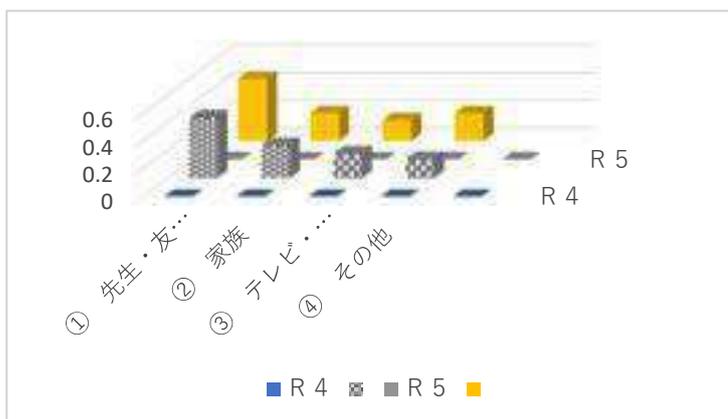
- ・ みんな普通の人だと思っているから、なんとも思わない。
- ・ 気になる点も良いと思う点もあるので、どっちとも言えない。
- ・ 友達にいたから気にならない。

2. あなたは、ゆい教室のことを入学前から知っていましたか。(5月実施：1年生対象)



	R 4		R 5	
① 知っていた	45人	35.2%	20人	31.7%
② 知らなかった	83人	64.8%	43人	68.3%
計	128人		63人	

3. 上記で、「①知っていた」と答えた人は何で知ったのかを教えてください。(複数回答あり)



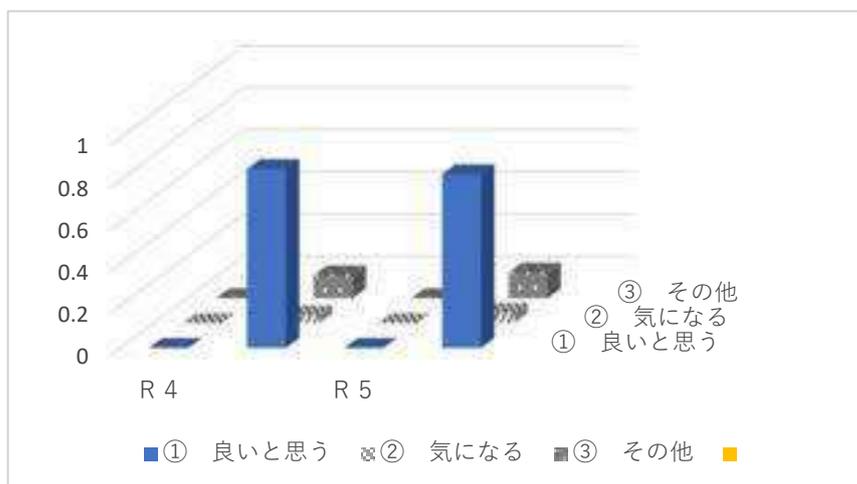
	R 4		R 5	
① 先生・友達・知人	22人	44.0%	9人	45.0%
② 家族	12人	24.0%	4人	20.0%
③ テレビ・新聞等	9人	18.0%	3人	15.0%
④ その他	7人	14.0%	4人	20.0%
計	45人		20人	

4. ゆい教室の生徒と、今後どのように接していきたいですか。

- ・一緒に授業を楽しく受けたい。
- ・助け合いながら、接していきたい。
- ・他の人と変わらずに接していきたい。
- ・クラスの仲間として今後も仲良くしていきたい。
- ・積極的に交流したい。
- ・遠くから見守る。
- ・もっと一緒にできる授業をやったりしたい。
- ・仲良くしたい。
- ・優しく接していきたい。
- ・今までと変わらず思いやりを持って接したい。
- ・絶対に差別とかしない。
- ・同じクラスメイトの一員として平等に接する。
- ・ほどよい距離感で接する。

5. ゆい教室の生徒とやってみたい事や、改善して欲しいところがあれば書いてください
- ・レクとか、普通におしゃべりとかをしてみたい。 ・一緒にスポーツをたくさんしたいです。
 - ・ゆい教室の子も一緒に皆で1つの作品づくりをやってみたい。 ・交流お楽しみ会。
 - ・みんなであそんだり、実験やグループ活動など、協力してやることをやりたい。
 - ・ちょっとした交流学习をして、一緒にゲームしたりして楽しみたいし、仲を深めたい。
 - ・仲良くなりたい。 ・一緒にご飯を食べたい。
 - ・たまに大きな物音や大声を出す事を改善して欲しい。 ・できればもう少し静かにして欲しい。

6. ゆい教室の生徒と一緒に授業を受けての感想をお聞かせください。(9月実施)



	R 4		R 5	
① 良いと思う	176 人	85.3%	135 人	82.8%
② 気になる	5 人	3.7%	8 人	4.9%
③ その他	15 人	11.0%	20 人	12.3%
計	136 人		163 人	

感想

① 良いと思う

- ・楽しくできるし、普段関われないから関わってうれしいから。 ・元気出る。
- ・気にならないし、他の生徒と変わらないので良いと思います。 ・仲良くなれるから。
- ・ゆい教室の生徒と交流することは、お互いにより刺激になると思うから。
- ・いろんな人と関わることが出来て、将来に役立つと思うから。
- ・互いに同じことに取組、楽しさを分け合えるから。
- ・一緒に受けることで、コミュニケーションがとれるから。
- ・仲良くできるし、思いやりの心を持てるようになる。
- ・楽しく一生懸命頑張っている姿を見るだけで、笑顔になるから。
- ・一緒にできる環境があって幸せ。いい経験でしかない。

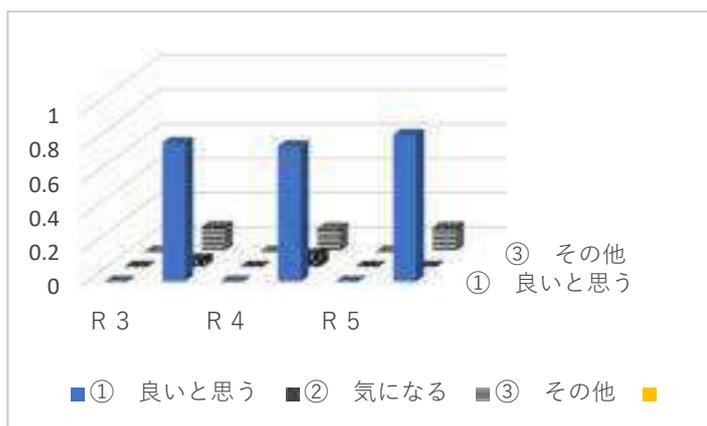
② 気になる

- ・声とかが気になる。 ・たまにうるさくなる。
- ・歩き回ったり、常にしゃべったりして気がちる。

7. その他、気がついたことがあれば、どんな事でもかまわないので書いて下さい。

- ・ゆい教室の子と話していると楽しいし、とても素直だから接しやすいです。
- ・ゆい教室の方々はとても活発で元気になります。ありがとう！
- ・共同学習っていいなと感じてきた。
- ・座りこんでしまうときがあるけれど、その時に話しかけてもいいのか知りたい。
- ・会話をするタイミングが分からない。 ・皆の理解が少ない。

8. ゆい教室の生徒と一緒に授業を受けての感想をお聞かせください。(2月実施)



	R 3		R 4		R 5	
① 良いと思う	55人	80.9%	121人	79.1%	54人	85.7%
② 気になる	3人	4.4%	11人	7.2%	0人	0%
③ その他	10人	14.7%	21人	13.7%	9人	14.3%
計	68人		153人		63人	

感想

① 良いと思う。

- ・ゆい教室の子とも交流できるし、色々理解が広がっていいんじゃないかな？って思います。
- ・自分から参加して、すごいと思ったから。 ・普通の授業となんら変わらない。
- ・社会に出る時に多様な人と関わられるようになれるから。 ・楽しいし、仲良くなれるから。
- ・私達は福祉関係の授業をしているので、とても関わるのが良いと思ったから。
- ・一緒に学べて、クラスの雰囲気も明るくなっていると思うから。

② 気になる。

- ・うなり声やときどき大きな声を出すのが少し気になる。 ・ちょっとあぶなっかしい。
- ・一緒に授業を受けること自体は特に何とも思わないけど、先生の話をしている時とかはちょっとだけ静かにしていて欲しいかなと思った。

③ その他

- ・慣れたらそこまで気にならない。 ・気にしていない。
- ・時々声が気になるが、気にするほどでもないから。
- ・あまり関わりがないから、よく分からない。

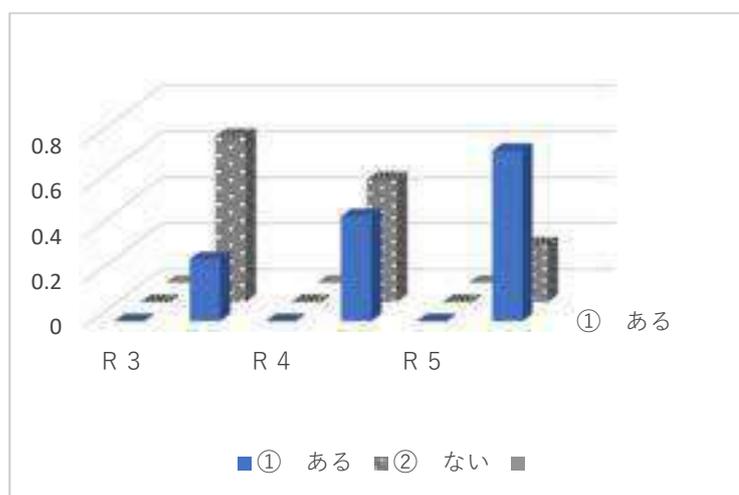
9. ゆい教室の生徒と、今後どのように接していきたいですか。

- ・今まで通り。 ・普通に接する。 ・優しく。 ・楽しく。
- ・仲良くしたい。 ・友だちとして。 ・他の生徒と同じように。

10. ゆい教室の生徒とやってみたい事や、改善して欲しいところがあれば書いてください。

- ・もっと交流してみても楽しいんじゃないかなって思いました。
- ・一緒に発表とか。 ・かくれんぼ。
- ・何かのスポーツ大会をやってみたい。 ・球技をやってみたい。
- ・一緒にダンスや手話をしたい。
- ・サッカーの試合やその他の試合に突っ込まないで欲しい。めっちゃけがさせそう。
- ・少し声が大きいのが気になる。

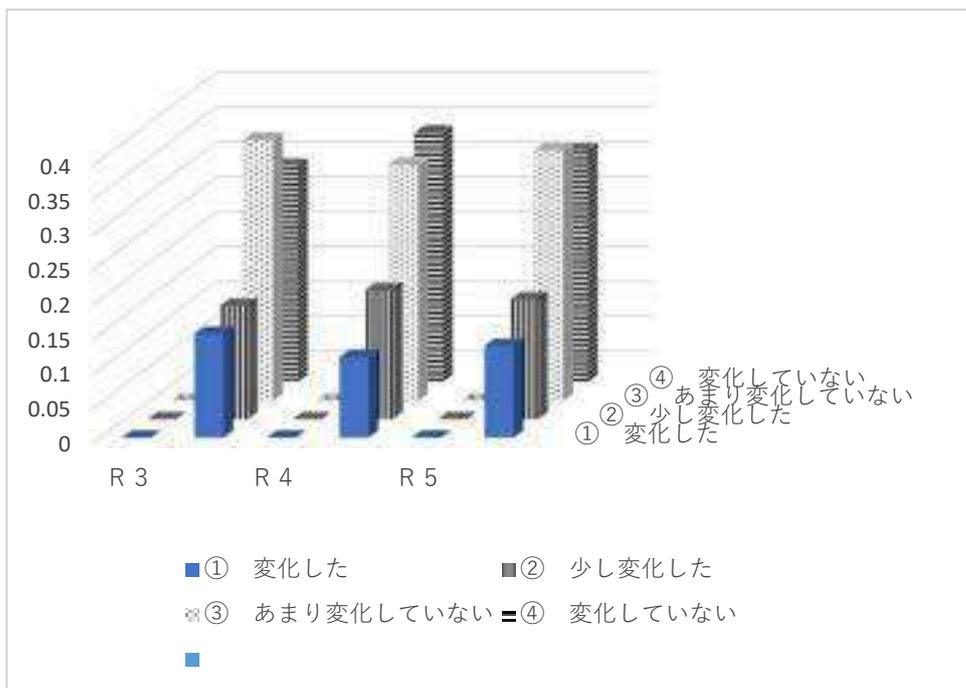
11. あなたはゆい教室の生徒と一緒に活動(授業、行事など)をしたことがありますか。



	R 3		R 4		R 5	
① ある	78人	27.4%	127人	46.2%	56人	74.7%
② ない	207人	72.6%	148人	53.8%	19人	25.3%
計	285人		275人		75人	

- ・体育の授業を誰よりも一生懸命行っていて尊敬。 ・一緒に体育をして楽しかった。
- ・めったに経験することはないから、こーゆー機会に参加できて、一緒に何かをやるのはうれしい。
- ・一緒に授業を受けることはできたけど、コミュニケーションを取ることがあまりできなかった。
- ・一緒にいて思ったことは、特になんも違和感があまりなかった。 ・頑張っていた。
- ・めちゃくちゃいい子で、授業中に自分から発言をされていてすごい。

12. あなたはゆい教室が設置されたことで、障がいに対する意識が以前と比べ変化しましたか。



	R 3		R 4		R 5	
① 変化した	42 人	15.0%	32 人	11.7%	10 人	13.3%
② 少し変化した	46 人	16.4%	51 人	18.6%	13 人	17.3%
③ あまり変化していない	105 人	37.5%	93 人	33.9%	27 人	36.0%
④ 変化していない	87 人	31.1%	98 人	35.8%	25 人	33.3%
計	280 人		274 人		75 人	

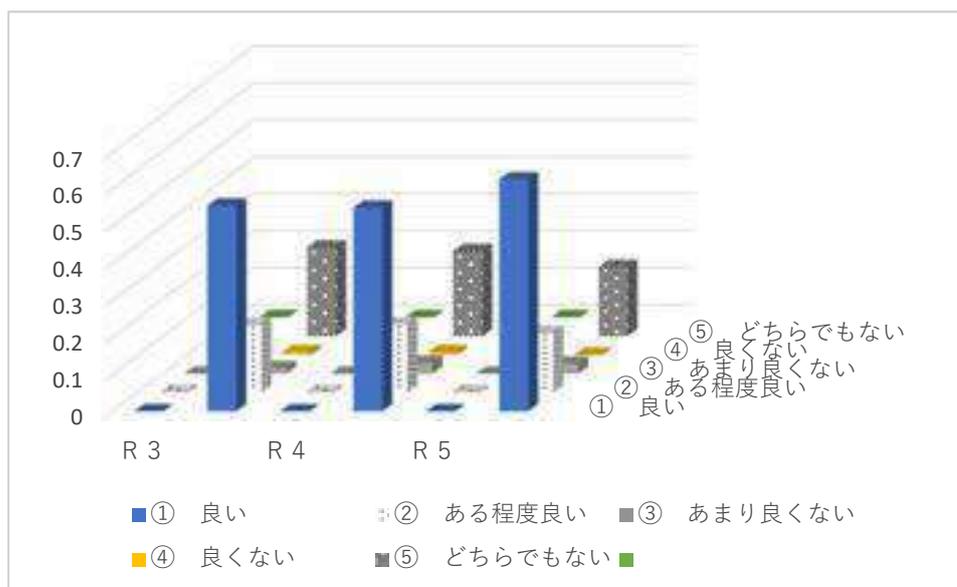
<①または②と答えた人>

- ・ 障害の有無に関係なく、皆同じなんだと感じた。触れ合ってみると意外と楽しい。
- ・ 障害を持っていても同じ人間だから、最初に関わる時は抵抗があったけど、楽しく接してくれたので、抵抗がなくなりました。
 - ・ 障害の方が怖かったけど、怖くなくなった。
- ・ 障がいがある人に少し抵抗があったが、普通の人とあまり変わらないと分かった。

<③または④と答えた人>

- ・ 偏見とかは無かったので変わらない。
- ・ 障害について勉強しているから、変化しなかった。
- ・ 中学の時に近くに住んでいる方がいて、少しだけ対応の仕方を知っていたから。
- ・ 特に気にしていないから。
 - ・ 関わりがないから分からない。

13. あなたはゆい教室が設置されて、どう思いますか。



	R 3		R 4		R 5	
① 良い	153 人	55.6%	153 人	55.0%	47 人	62.7%
② ある程度良い	50 人	18.2%	51 人	18.4%	12 人	16.0%
③ あまり良くない	4 人	1.5%	8 人	2.9%	2 人	2.7%
④ 良くない	2 人	0.7%	2 人	0.7%	0 人	0%
⑤ どちらでもない	66 人	24.0%	64 人	23.0%	14 人	18.7%
計	275 人		278 人		75 人	

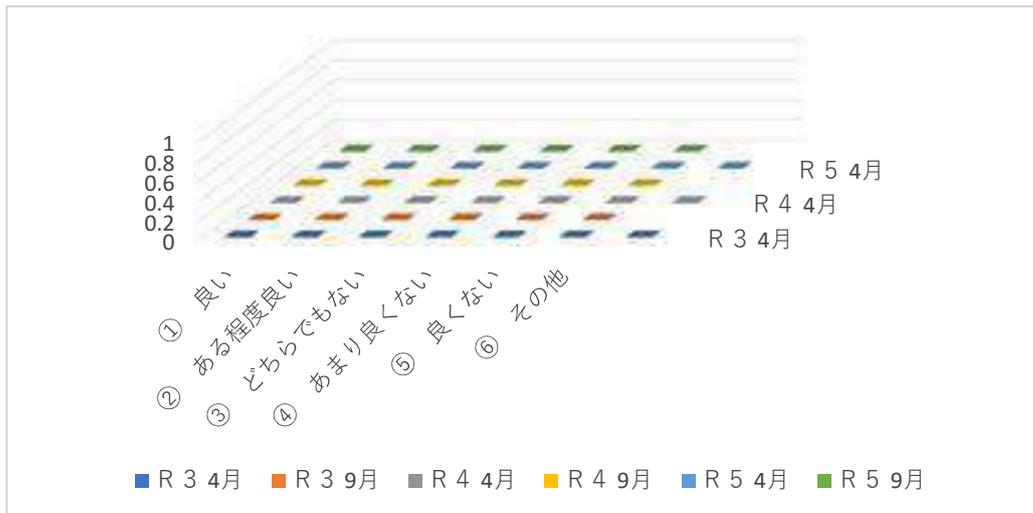
- ・良い経験ができるから。 ・差別とかする人とかが少しでも減るだろうから。
- ・普段、障害を持っている人と関わることがあまりなくて、どういう接し方をしたらいいのか分からなかったけど、話していて楽しいし、ゆい教室があるのは良いことだと思います。
- ・福祉を学んでいるけど近くで関わることがないから、学校の授業などで関わることができて、障害を持った人に対しても普通の人だと思えることができる。あるとないとは学校の雰囲気も違うと思う。
- ・学びあえる環境があるから良いと思う。 ・みんなと一緒に学べて良いと思ったから。
- ・障がいの有無に関わらず、一緒に交流ができたり、学べたりできるから。
- ・時代に合ったシステム。 ・多様性が求められているから。 ・障害を理解できるから。
- ・少しでも理解のある人が増えたら良いと思うので、すばらしいと思います。
- ・まだよく分からない。 ・関わりがない。 ・先生の声が聞こえずらい。

14. ゆい教室の生徒と、今後どのような関わりをしたいと思っていますか。

- ・普通に一人の人としての関り続けたい。 ・周りの生徒と変わりなく関わる。
- ・仲良くしたい。 ・特に変わらず接していきたい。
- ・福祉の授業で交流の場を設けて交流会をしてみたいと思っている。
- ・今まで通り関わっていただけたいと思います。 ・友達でいたい。
- ・つかず離れずの適切な距離で。

<職員へのアンケート>

1. ゆい教室の生徒の活動及び共同学習に関してどのように感じていますか。4月当初と現在(9月)のそれぞれについて、下記の中から1つずつ選んでください。



※ 回答数が少なく、優位な差として上記グラフに表れていません。

	R 3		R 4		R 5	
	4月	9月	4月	9月	4月	9月
① 良い	0人	0人	1人	1人	7人	6人
② ある程度良い	8人	8人	7人	10人	4人	8人
③ どちらでもない	1人	1人	3人	0人	3人	1人
④ あまり良くない	1人	1人	0人	0人	0人	0人
⑤ 良くない	0人	0人	0人	0人	0人	0人
⑥ その他	1人	1人	2人	2人	2人	1人
計	11人		13人		16人	

感想

- ・先生方が常に側に付いておられるので、大きなトラブルもなく過ごしていたように思います。
- ・一緒に学ぶことが習慣化されている。あたりまえになりつつある。
- ・去年同じクラスだった生徒もおり、ゆい教室の生徒とも声かけのタイミングや共同学習の態勢がある程度できている状態であったから。
- ・ゆい教室の生徒ができる範囲で一緒に活動している。
- ・ゆい教室の生徒も普通の生徒と一緒に授業に参加することができている。
- ・真和志高校の生徒が、ゆい教室の生徒をサポートする様子が見られてきたから。
- ・彼らの学校生活が充実しているように見えます。
- ・生徒のノーマライゼーションの意識が根付いている感じがする。
- ・意欲的に取り組んでいて他の生徒によい影響を与えています。
- ・ゆい教室の生徒が入ることによって、生徒も雰囲気が良い。

2. これまでのゆい教室の生徒と一緒に授業を受けている真和志高校の生徒へのアンケートの結果をご覧になっての感想をお願いします。(R3)

- ・多くの生徒は問題なく共同学習を受け入れているように思います。
- ・小・中学校よりインクルーシブ教育の経験があるからか、生徒はゆい教室を当たり前のように受け止めている様子が見て取れました。特別視することなく接している状況は良いと思います。

3. 共同学習の様子を見て気づいたことや感じたことをお書きください。
- ・交流を通じクラスの生徒の様々な一面を見直す機会ともなっている。またゆい教室の生徒の姿を見、集中が切れていた生徒も声を掛けながら一緒に活動に取り組む姿も見られた。
 - ・障害を持っている生徒の幅の広がりや、真和志の生徒が障害を持っている人と共生していく上で、接し方やコミュニケーションの取り方を学ぶ入り口としては共同学習は良いと思う
 - ・ゆい教室の生徒は、先生方の手厚いサポートのもと楽しみながら授業に参加しているように感じた。真和志高校生はどう接して良いか分からないのか、関わり合いを持っていない生徒も一定数いるように感じた。
 - ・もっとゆいの生徒たちが参加できる授業が増えるといいなと思いました。
 - ・生徒同士と一緒に課題に取り組もうとする姿勢や、それを通して生徒の新たな面を見ることができる。
 - ・日頃授業等で関わっている生徒の意外な一面をみることができた。普段は立ち歩きやおしゃべりをする生徒も、話し合いのときに積極的にグループに入れたり、コミュニケーションを取る姿がみられ、一部分しか見えていない自分に気づかされた。
4. 日頃の活動から気がついた点や真和志高校の生徒からの情報等があればお書きください。
- ・一人に対して、何名もの職員がついていて手厚すぎる。(共同学習やインクルーシブ教育もわかるが、どうしても、そう感じてしまう。)
 - ・担当の先生方の絶妙な協力・サポート体制が勉強になります。
 - ・お互い気軽に挨拶できると良いなと思います。生徒同士がフレンドリーになれると良いかな、促していきたい。
 - ・ゆい教室の生徒が明るく行動している様子を普通の生徒にもよい影響を与えることができればよい。
 - ・学年の枠を超えてもっと関わりあうことのできる機会が増えて欲しい。
 - ・生徒は優しく接してくれていると感じる。他に悪い噂は聞いたことがない。ちゃんと理解し受け入れている。
5. その他、何かありましたらお書きください。
- ・必要などころに必要な人員を確保することが、指導する側とされる側のどちらにも安全と和(なごみ)を担保するのだと実感しています。
 - ・普通の生徒も授業中にゆい教室の生徒に声かけする場面も見られ、よい雰囲気をつくることもある。
 - ・廊下などで、生徒に声をかけられて、ゆい教室の生徒が嬉しそうに返事をしたり、表情が明るいところなどを見ると和みます。
6. 真和志高校の生徒の様子について（授業担当者より）
- ① よい影響と思われる点
- ・ゆい教室の生徒のサポートをすることで、自分に自信がついてきたように感じる。
 - ・壁を作ることなく交流している生徒が増えてきた点。
 - ・ゆい教室の生徒の素直なところに、周囲も心が和む。普通クラスの生徒も、多くの職員にサポ

ートされている点。

- ・多様な生徒と交わることで、生徒の共生力が養われている。ゆい教室の生徒や職員が入ることによって生徒も活発になり、刺激を受けている。
- ・いくつかの場面でゆい教室の生徒のことを考えた行動をしている。

② 気になる点や問題点

- ・実技教科なので、安全面やケガの心配の懸念がある。できれば一緒にゲームにも入った方がよいが体力面の懸念もあり、教科としてさらなる工夫も考えなければならない。
- ・真和志高校の生徒が、どう接してよいのかわからず、交流している様子が見られない時もある。
- ・関わりを持たせる授業の工夫が難しい。 ・接触によるケガ。

7. 共同学習について、意見や感想、要望等をお願いします。

- ・交流を通して、社会に対して視野が広がるのは良いと思います。
- ・共同学習について、色々と工夫しながら授業展開する必要があり日々試行錯誤である。
- ・日頃消極的な真和志高校の生徒達が、ゆい教室の生徒には隔てなく自然に接している様子が新鮮にうつります。ゆい教室の生徒も和やかな雰囲気と一緒に取り組む様子をみて嬉しく思っています。
- ・関われる状況であるのであれば、生徒同士教えあっている授業も組み込みたいと思っています。
- ・大切な機会だと思います。
- ・特に意識することなく、同じ空間で活動できていることが当たり前の風景となっているのは微笑ましい。
- ・一緒に教室での学習を通して、お互いに何か気づきがあると思います。後期は、校外学習も入れながら、学習や交流が深まれば良いと思います。学習の中で気づいたことがあれば、教えていただきたいです。よろしくお願いします。
- ・共同でできることのアイディアがないのが悩みです。どのようなことができるのか、アドバイスをいただけると助かります。

8. ゆい教室の生徒の活動及び共同学習に関してどのように感じていますか。

- ・ゆい教室の生徒と交流するために本校の生徒が試行錯誤しながら交流内容を考えたり、“相手のために”という気持ちを持ちながら取り組んだ姿勢は生徒の成長に繋がったと思います。
- ・一緒に活動することで、真和志高校の生徒には良い影響しかないのかなと感じます。ただ、ゆい教室の生徒が共同学習を行う中でどう感じているのか、楽しんでいるのかは心配です。
- ・一緒に学ぶ場があることで、お互いの理解が進むとを感じる。ただし、座学での学習では、ゆい教室の生徒にとって良い影響があるとは言えないとも感じる。何かお互い共通の学びができる工夫が必要だと思うが、事前に打ち合わせをしたり準備する時間が取れない。校外学習はどちらにも良い学びができたと感じる。

9. これまでのゆい教室の生徒の変化と、真和志高校の生徒の変化について気がついた事をお書きください。また、真和志高校の生徒からの情報等があればお書きください。(職員)

- ・ゆいの生徒は入学当初、大きな声や強い足踏みをしたりと緊張した様子が見られたが、近ごろは見慣れた先生や生徒を見ると立ち止まったり、挨拶を返してくれるなど、慣れた様子が見られ

ている。

- ・共同学習を行ったり、学校生活で関わりがある生徒の多くは、ゆい教室の生徒に優しく接する思いやる気持ちが芽生えてきていると思います。一部配慮のない、意地悪な対応をする生徒たちの心の成長を促すことが必要だと思います。
- ・真和志高校の生徒が、ゆい教室の生徒への配慮をする行動がみられた。“待つてあげる”や“ゆずってあげる”など。生徒の中には、ゆい教室の生徒をからかう（ちょっかいを出す）生徒もいて、気になった。

10. その他、意見や感想・要望等、何でもかまいませんのでお書きください。

- ・生徒の成長は端から見ても目を見張るものであるが、果たして共同学習の成果なのかどうかは客観的・科学的な検証が必要だと思う。次年度も引き続き普通コースが交流学級や共同学習の授業となっているが、福祉科・クリエイティブも含め全体で取り組んではどうか。今年度はコロナの影響で島尻との交流学习がほぼ実施されなかったが、R2年度のように複数回交流学习も行うとなると、当該教科担任の負担は大きいと思う。
- ・今年度連携クラスを担当させて頂きました。LHR や学級レクなど、担当の先生方には大変お世話になりました。連携クラスの生徒のことについても愚痴を聞いて頂いたり、アドバイスを頂いたり、精神的にも大変励まされました。何人も担任がいるようで心強かったです。ゆい教室の先生方には感謝感謝です。もちろんゆい生徒も、おとなしい生徒の多い中で笑いや癒やしを提供してくれるムードメーカー的存在でした。そういう意味では間違いなく、ゆい教室は真和志にとって大きな役割を果たしていると思います。色々手回らないことも多く、申し訳ありませんでした。1年間本当にありがとうございました。心からお礼を申し上げます。
- ・ゆい教室の生徒と今後もっと交流ができる仕組みが推進されれば良いと思います。

【 参考資料 3 】

インクルーシブ教育システムの構築を目指した教育実践の取組

令和3年4月号～令和6年2月号までの3年分を集録

「ゆい教室通信」

ゆい教室通信

県立真和志高等学校ゆい教室

令和3年4月30日 第1号

令和3年度4月よりゆい教室がスタートしました。7日には第1号となる生徒が希望に胸膨らませ、目を輝かせて入学式に参加しました。真和志高等学校の掲示板の「挑戦」という文字の書かれた門をくぐり、毎日登校し、もうすぐ一カ月になろうとしています。ゆい教室では、「共生社会の形成及びインクルーシブ教育システムの構築に向け、障害のある生徒と障害のない生徒が共に学ぶ仕組みと、一人一人の教育的ニーズに応じた学習指導の充実に努める。」という教育目標のもと、「あいさつや返事ができる生徒」「自分自身や相手を大切にできる生徒」「社会生活に対し、主体的に活動できる生徒」「真和志高等学校の生徒と共に学び、お互いを尊重し、共に支え合う生徒」を目指して、日々の活動に取り組んでいます。

楽しかった新入生歓迎球技大会

コロナ感染症防止対策をしながら、23日（金）那覇市民体育館で新入生歓迎球技大会が行われました。連携学級6組はピンクのクラスTシャツで一致団結して、頑張りました。お互いの親睦も深まり実りある球技大会でした。



ブロック！！



ナイスサーブ！

授業の様子



理科：光と色について



音楽：ギターに触れる



級友と教室清掃

5月の行事予定

- 3日（月） 憲法記念日
- 4日（火） みどりの日
- 5日（水） 子どもの日
- 7日（金） 胸部レントゲン・心電図検査（5、6校時）
- 16日（日） PTA 総会（水の1～4校時の授業）
- 17日（月） 代休
- 19日（水） 月の1～6校時の授業
- 26日（水） 木の1～6校時の授業
- 27日（木） 水の1～4の授業、歯科検診（5、6校時）

GW コロナ禍を乗り切る行動

★マスク着用

感染を防ぐために学校でもマスク着用の練習を日々頑張っています。

★こまめな手洗い

手を常に清潔に保つことでウィルスの体内への侵入を防ぐことができます。教師と一緒にこまめな手洗い取り組んでいます。

★3密を避ける

密閉空間、密集場所、密接場面を避け、有意義なゴールデンウィークを過ごしましょう。



自立活動でマスク着用練習中。
5秒できました。

ゆい教室通信

県立真和志高等学校ゆい教室

令和3年5月31日 第2号

ゆい教室がスタートしてあっという間に2ヶ月が過ぎました。4月当初は、朝8時50分SHRから16時10分下校の学校生活に慣れるまで、体力的にも大変でしたが、少しずつ生活リズムも整ってきたように見えます。

最近では、廊下をすれ違う時に「おはよう」と挨拶したり、声をかけてきたりする生徒が増えてきました。

ゆい教室では、「できることは自分で」という学級目標を立て、自分のことは自分でできるように日々取り組んでいます。5月は、連携学級のみんなと「自分の良いところ、直したいところ」と題し、グループ学習をしました。また、作業学習では野菜を植え、日々観察をしています。また、新型コロナウイルス感染防止のため、マスク着用練習、手洗い、手指消毒を継続して頑張っています。

5月の授業の様子



机の消毒中



プール学習



理科：みんなと動画視聴中



友達と休み時間のひととき



野菜の苗植え

一緒に移動しよう～



「蝶々捕まえたからどうぞ」



6月の行事予定

6/1(火)～6/18(金)まで
時差登校および分散登校

9:20開始(1～6校時45分授業)

21日(月) 生徒総会(L、月23456)

23日(水) 慰霊の日(休日)

24日(木) 校内研修のため早下校

木の1256の授業

25日(金) 校内研修のため早下校

金の1256の授業

※行事予定は、新型コロナウイルスの感染防止のため変更する場合があります。ご了承ください。

コロナ感染症対策マスクチャレンジ②



マスクをして
買い物学習中

入室時
マスク着用
できました！



ゆい教室通信

県立真和志高等学校ゆい教室

令和3年7月12日 第3号

太陽が照りつけ、沖縄に本格的な夏が到来し、朝からセミの大合唱が聞こえてきます。

7月12日からゆい教室は通常登校になり、8時50分SHRスタートです。朝の登校時間の変更で生活リズムも変わり、慣れるまで少しかかるとは思いますが、早寝、早起き、朝ごはん、夏バテ防止をし、感染症対策をしながら体調を整えていきましょう。

さて、ゆい教室では7月5日(月)～7月16日(金)まで前期校内実習を行っています。キャリア教育の観点から、個に応じた課題や役割を果たすことで意欲や生きる力を身につけ、社会参加と自立及び豊かに生活する力を育むことをねらいとし取り組んでいます。実習は、感染症対策を行い、校内清掃や地域清掃、体力作り、生産活動、交流及び共同学習を計画して順調に1週目を終えることができました。

9日(金)には、みらい福祉科の生徒の皆さんと交流及び共同学習をしました。みらい福祉科の皆さんが企画立案した3つの学習(ベットメイキング、車椅子の移乗、衣服の着脱)を一緒に行いました。お互いコミュニケーションをとるうちに、徐々に緊張もほぐれ、授業の終わりには、みんな笑顔でした。みらい福祉科の皆さんとゆい教室の共同学習は、とても充実した有意義な体験活動になりました。

実習2週目も熱中症対策をして、コロナウイルス感染防止に努め、マスク着用練習、手洗い、手指消毒も継続して取り組み、一回り成長した姿で夏休みに突入できるよう頑張ります。

前期校内実習の様子



菜園整備



地域清掃



リサイクル活動



衣服の着脱



介護用電動ベッドの操作



車椅子の広げ方を教えてもらいました。



国語表現：自己アピールをスライドで発表



手洗い
チェッカー

手洗い後、汚れが残っていないか確認中

7月・8月の行事予定

7/12(月)	より通常登校8時50分SHR
★7/5(月)～7/16(金)	前期校内実習
12日(月)	50分授業 16時10分下校
13日(火)	50分授業 16時10分下校
14日(水)	45分授業 5校時 14時45分下校
15日(木)	45分授業 5校時 14時45分下校
	★保護者面談
16日(金)	45分授業 6校時 15時40分下校
	生徒会長選挙(5校時)
21日(水)	交通安全講話(4校時)
	夏季休業前全体集会(5校時)

7/22(木)～8/24(火)夏季休業日

★8/25(水)(LHR、水の234)



マスクをして弁当購入へ

コロナ感染症対策
マスクチャレンジ③

ゆい教室通信

県立真和志高等学校ゆい教室

令和3年10月1日 第4号

秋分の日を過ぎ、暦の上では10月になりました。朝夕の暑さも少しずつ和らぎ過ごしやすい季節がやってきました。

今日は前期終業式です。夏休み明けは、コロナ禍で時差登校や分散登校となり、日程変更やリモートでのSHRや授業実施と初めてのことをいろいろ経験しました。

10月4日(月)は秋休みです。5日(火)から後期が始まります。前期で頑張ったことをご家庭でも振り返り、後期へ向けて激励の言葉をかけていただけると、やる気もアップすると思います。秋休み明けには後期の目標を立て、一緒に取り組んでいきましょう。

前期よく頑張りました！！4月は場所や人、授業に慣れることで忙しい時期でしたが、今は連携学級の友達や同じ授業の友達と挨拶を交わしたり、同じグループに誘われたりとお互いに気持ちが打ち解け合っているように感じます。

オンライン授業でも画面から顔を見せたり、返事をしたりと、今まで経験できなかったことを真和志高校のみんなと経験しましたね。

後期もたくさんの経験をたくさんの人達と積み重ねていきましょう！！

担任より

10月の行事予定

- | | |
|--------|-------------------------|
| 1日(金) | 前期終業式 12時35分下校 |
| 4日(月) | 秋休み |
| 5日(火) | 後期始業式 |
| 6日(水) | 月曜日の時間割 |
| 14日(木) | 5・6校時LHR 前日準備 |
| 15日(金) | 真和志フェス |
| 19日(火) | オープンスクール3校時まで |
| | 12時20分下校 |
| 28日(木) | 性・人権講話(1校時)
新人大会等激励会 |

8月・9月の授業の様子



野菜の水やり・観察



リモート学習：子ども文化



体育：卓球



LHR：真和志フェスについてテーマ決め



コロナ感染症対策
マスクチャレンジ④

先生の手本を見ながら、
マスクのゴムを耳にかけています。



じゃんけん
ポン！！

総合探究：ライフキャリアすごろく

ゆい教室通信

県立真和志高等学校ゆい教室

令和3年12月7日 第5号

師走を迎え、2021年も残すところわずかとなりました。ゆい教室では、後期が10月5日からスタートし、真和志フェス、環境学習、芸術鑑賞会、マナー講座とさまざまな行事にも参加し、充実した学校生活を過ごすことができました。

また、11月8日～11月19日までの2週間は、後期就業体験をしました。就業体験中は、「挨拶をする」「時間を守る」という2つの目標を立ててがんばりました。前期就業体験より活動する時間が長くなりました。周りの先生方や友達からの声かけに挨拶もたくさんしました。就業体験を通して、働くことについて考える良い機会となりました。

12月は今年1年を振り返り、自分自身や友達の良かったところをお互いに褒め合い、2022年の目標を立てていきましょう。

入学式から9ヶ月！4月から色々なことにチャレンジしてきましたね。成長を感じる場面がたくさんあります。級友との関わりも増え、お互いの笑顔も多く見られるようになりました。

これからも、楽しい学校生活を送りましょう。

副担任より

12の行事予定

- 1日（水） マナー講座
- 2日（木） 歯科検診
- 7日（火） クリエイティブ卒業記念展
～12日（日）
- 8日（水） 顔写真撮影
- 21日（火） 交通安全講話
- 22日（水） クラス写真撮影
- 24日（金） 冬季休業前全体集会
- 25日（土） ～1/5（水） 冬季休業

授業の様子

コロナ感染症対策マスクチャレンジ⑤



真和志フェス
スタンプラリー



仮装コンテスト



首里城および周辺の史跡巡り



収穫したニラで
ヒラヤーチー作り



みらい福祉科とポッチャに挑戦



後期就業体験：校内清掃



進路学習：カフェ体験

一口飲んで
「苦い…」

環境学習

ゆい教室通信

県立真和志高等学校ゆい教室

令和4年2月8日 第6号

暦の上では立春を迎え、残すところ2か月となりました。今週から通常登校になり、生徒はコロナ感染症対策をしながら、これまで学習してきたことのまとめに入っています。

後期の後半は、進路決定者による進路講話、体育の授業でダンス発表会、予餞会（動画視聴）、ワックス作業、卒業式、修了式などの行事があります。さまざまな行事を終えるたびに、ゆい教室の生徒も少しずつ変化している姿が見られます。残り少ない日々、手洗い、うがい、マスク着用を心がけ、たくさん笑って免疫力アップに取り組んでいきます。そして、今年度の目標は達成できたかを振り返り、2年次に向けての準備をしていきます。

1年次の登校日数は、あと24日。光陰矢の如しです。一日一日大切に過ごしていきましょう。

授業等の様子



校外学習で郵便局を利用



スポーツⅡ校外学習(ボウリング)に参加



みらい福祉科と島尻特別支援学校の
交流及び共同学習にゆい教室も参加
(ゴムくぐりにチャレンジ)



休み時間に腕相撲



教室清掃



子ども文化：オンライン学習



体育：ダンス発表会

2の行事予定

- 7日(月) 水の授業・予餞会
- 11日(金) 公休日(建国記念の日)
- 14日(月) 月の3456の授業
13時20分下校
- 16日(水) 環境について・ワックス作業
- 23日(水) 公休日(天皇誕生日)
- 24日(木) 5校時まで15時10分下校
保護者面談
- 25日(金) 4校時まで13時20分下校
- 28日(月) 1～4校時まで
卒業式会場設営・予行演習

不織布マスクの着用が
少しずつできるよう
なってきました。

コロナ感染症対策 マスクチャレンジ⑥

ゆい教室通信

県立真和志高等学校ゆい教室

令和4年3月23日 第7号

心地よい風が吹き、春の訪れを感じるようになりました。本日は今年度の修了式です。令和3年度が終わり、次の学年へ進級、新しい出発が待っています。コロナ禍で、これまでの生活が一変し、我慢しなければいけないことも多くありました。その中でも、いろいろな工夫をし、高校生活を過ごすことができました。この1年間よく頑張りました。

保護者の皆様からのご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。また、4月に元気な顔で会える日を楽しみにしています。

一年次修了おめでとうございます。4月と比べ、心も体も大きく成長したように見えます。連携学級や各教科の授業では、笑顔で過ごしている姿を見て、頼もしく感じます。二年次でも自分のできることを増やすとともに、やってみたいことに挑戦していきましょう！

担任より

※3/24(木)～4/6(水)春休み

4の行事予定

- 7日(木) 前期始業式・就任式(式服)
- 11日(月) 尿検査(～13日)
- 14日(木) 校医検診・身体測定
- 15日(金) HR 役員認証式、対面式
- 20日(水) 新入生歓迎球技会
- 25日(月) 家庭訪問
- 26日(火) 家庭訪問
- 28日(木) 1・2年校外学習

授業の様子

不織布マスクで
即席みそ汁作り

コロナ感染症対策
マスクチャレンジ⑦



国語表現基礎(中身はなに?)



子ども文化(フェルトで小皿作り)



卒業式会場設営及び全体清掃



器楽(バイオリン)



ワックス作業



地域清掃



地域マップ作り(識名園)

ゆい教室通信

県立真和志高等学校ゆい教室
令和4年5月号

ゴールデンウィークが明け、新年度スタートから早1ヶ月、HR 役員認証式、対面式、新入生歓迎球技大会と行事を通してお互い緊張もほぐれ、高校生としての自覚も芽生えつつあるようです。そろそろ新学期の疲れが出てくる頃です。新型コロナウイルス感染症対策をしながら、体調を整えて活動していきましょう。

これから、ゆい教室通信を通して1、2年次の共同学習の様子をお伝えしていきます。

共同学習の様子



国語表現基礎：自己紹介



器楽：オリエンテーション



真和志スタンダード（1年）



HR 役員認証式、対面式



新入生歓迎球技大会 1回戦 1・2年連携学級対決



1年校外研修：平和祈念公園



地域のパン屋さんへ校外学習



2年校外研修：平和祈念公園・沖縄ワールド

5月の行事予定

2日(月) 胸部レントゲン・心電図検査(1年)

3日(火) 憲法記念日

4日(水) みどりの日

5日(木) こどもの日

9日(月) 木の授業

22日(日) 水の1234校時 PTA総会

23日(月) 代休

24日(火) 高校総体等激励会(6校時)

25日(水) 木の授業

26日(木) 水の授業、歯科検診



ゆい教室通信

県立真和志高等学校ゆい教室
令和4年6月号



6月の行事予定

- 1日(水)慰霊の日統一 LHR(1, 2校時)
- 2日(木)45分授業15時40分下校
- 10日(金)人権の日
- 15日(水)職業体験授業(5, 6校時)
- 16日(木)野球部激励会
- 17日(金)生徒総会(1, 2校時)
防災訓練(6校時)
- 23日(木)慰霊の日
- 27日(月)校内研修13時20分下校
- 28日(火)校内研修13時20分下校
- 30日(木)校医検診・身体測定(5, 6校時)

授業参観・PTA 総会ご参加ありがとうございました

5月22日(日)、授業参観・PTA 総会が行われました。生徒達も授業参観を心待ちにしている、保護者の皆さんが教室にいらしたときには、とても喜んでいました。コロナ禍で限られた時間の実施でしたが、共同学習の様子を見ていただくことができ良かったです。

6月に入り、雨の日が続いています。気温が上昇し、湿度も高く、体温調節が難しい時期です。ご家庭でも体調管理のご協力をよろしくお願いいたします。

共同学習の様子



数学基礎：指名された問題の解答中



体育：卓球練習

ゆい教室：家庭(ご飯の炊き方)



国語表現基礎：一緒に音読



歯科検診



国語表現基礎：ペアワーク



高校総体等激励会



おにぎり作り

見て、上手にできたよ

ゆい教室通信

県立真和志高等学校ゆい教室

令和4年7月号



前期就業体験終了!いよいよ夏休み



沖縄に本格的な夏が到来し、暑い日が続いています。ゆい教室では、熱中症対策、コロナ感染症対策をしながら、7月4日(月)～7月15日(金)まで前期就業体験を行いました。就業体験は、キャリア教育の観点から、個に応じた課題や役割を果たすことで、社会参加と自立および豊かに生活する力を育むことをねらいとし取り組んでいます。1年生にとっては初めての就業体験、2年生にとっては3回目の就業体験でした。

農園芸では、ニラやゴーヤーの観察、水やり、収穫、バジルの種取り、販売等の体験をしました。トータルクリーニングでは、玄関前通路の清掃や教室清掃を行い、技能検定メンテナンス部門テーブルふきの練習をしました。座学では、場面ごとのいろいろな挨拶について学習しました。ご家庭でのご協力のおかげで、無事に2週間最後までやり遂げることができました。ありがとうございました。

また、7月11日(月)、12日(火)には、地域のふれあいデイサービス利用者の方々と交流学習に行ってきました。最初に自己紹介をし、高齢者の方々と健康体操をしながら、コミュニケーションを取り、生徒達にとって楽しく、充実した体験的活動になりました。この交流体験を通して、地域の人々との関わりに関心をもつ機会になったと思います。

前期の前半が終わり、いよいよ夏休みです。早寝早起き、朝ごはん、夏バテ防止をし、感染症対策をしながら有意義な夏休みにしていきましょう。

前期就業体験の様子



協力しながら鉢洗い



プランター運び



ゴーヤー収穫



玄関前通路清掃



地域のふれあいデイサービス利用者の方々と健康体操

7月・8月の行事予定



7/4(月)～7/15(金) 前期就業体験

7/15(金) 生徒会長選挙

7/18(月) 海の日

7/19(火) 1,2校時 性教育講話

保護者面談①

7/20(水) 保護者面談②

7/21(木) 夏季休業前全体集会

7/22(金)～8/29(月) ★夏季休業日

8/30(火) 1校時: 夏季休業明け全体集会

2校時: 真和志フェスティバル

の取り組み、火の3456校時

8/31(水) 月曜日の授業

※夏季休業前、夏季休業明け全体集会は、式服着用です。準備よろしくお願ひします。



事前学習：高齢者の疑似体験中



地域のふれあいデイサービス利用者の方々とタオル体操



地域のふれあいデイサービスの方からお土産をいただきました（古波蔵むつみ会館にて）



ありがとうございます。



朝の SHR の様子（連携学級4組）



清掃時間のひとコマ（連携学級12組）



日頃の感謝の気持ちを込めて、大切に育て収穫したゴーヤーやニラをプレゼントしました。次回から職業の時間に販売学習も行っていく予定です。その際には、ご協力よろしくお願いします。

ゆい教室通信

県立真和志高等学校ゆい教室
令和4年9月号

朝夕の暑さも少しずつ和らぎ過ごしやすい季節がやってきました。前期も残すところ3週間となりました。夏休み明け全体集会は、コロナ禍で各HR教室にて校内放送でおこなわれました。生徒達は「夏休み楽しかった～」と夏休みの出来事を報告してくれました。

9月30日は前期終業式となっています。今月は前期の振り返りを行い、後期に向けての目標や計画を立てて行く予定です。後期には、真和志フェスティバルという大きな行事があります。生徒達は真和志フェスティバルに向けた取り組みを学級でおこなっています。

9月の行事予定

- 2日 (金) 野球部激励会 (昼SHR)
- 8日 (木) 英語カテスト (6校時)
- 22日 (木) ゆい教室説明会・真和志高校オープンスクール (45分授業1～3校時)
12時10分下校
- 26日 (月) 木の授業 15時10分下校
- 28日 (水) LHR：真和志フェスティバルの取り組み
- 29日 (木) 月の授業 真和志高校前期卒業式 (午後)
13時25分下校
- 30日 (金) 前期終業式

10月の行事予定

- 3日 (月) 秋休み①
- 4日 (火) 秋休み②
- 5日 (水) 後期始業式
- 12日 (水) 真和志フェスティバルの取り組み
- 19日 (水) 真和志フェスティバルの取り組み
- 21日 (金) 真和志フェスティバル
- 22日 (土) 真和志フェスティバル・後夜祭
- 24日 (月) 代休
- 25日 (火) 月の授業
- 27日 (木) 人権講話

8月・9月の授業の様子



沖縄の音楽：三線 (海の声)



沖縄の歴史：ウチナーカルタ



体育：サッカー



総合：ライフキャリアすごろく



クラフトデザイン：夏休みの思い出



陶芸：素焼きに上薬を塗っている様子



国表：一文ずつ音読する様子

ゆい教室通信

県立真和志高等学校ゆい教室

令和4年11月号 🍂

ただいま後期就業体験中!



ゆい教室では、10月5日より後期が始まりました。今年は真和志フェスティバルが2日間開催され、入場制限はありましたが、保護者も来場することができ、舞台、展示、出店と大盛況でした。1年次は、『オズの魔法使い』の映像制作、2年次は「プラネタリウム」展示に向けて連携学級のみならず共に協力し、最後までやり遂げることができました。

11月9日から22日までは後期就業体験です。生徒達は、自分に合った進路について考えたり、健康管理や身だしなみ、マナーについて気をつけたりしながら、一人ひとり目標を立てて取り組んでいます。ご家庭でも体調管理へのご協力や激励等よろしくお祈りします。

10月・11月の授業の様子



国語表現基礎：川柳



子ども文化：折り紙



真和志フェスティバル 1年オズの魔法使い（映像）舞台挨拶



あ～
ブルース・リーだ

「考えるな！感じろ！」

2年展示（プラネタリウム）受付係

令和4年度「家庭の日」
絵画・ポスターコンクール
最優秀賞 宮里日和さん
おめでとうございます。

11月の行事予定

- 3日（木）文化の日
- 9日（水）～22日（火）後期就業体験
- 11日（金）45分授業 15時40分下校
- 14日（月）～18日（金）グリーンデー募金
- 23日（水）勤労感謝の日
- 24日（木）校外学習（環境学習）
～体力向上を兼ねて～
- 25日（金）校外学習（買い物学習）



後期就業体験（校内）



全校生徒で環境学習



後期就業体験（校外）：あやかりの杜



ゆい教室通信

県立真和志高等学校ゆい教室
令和5年2月号

逃げる月を充実した2月にするために

暦の上では立春を迎え、残すところ2ヶ月となりました。後期の後半は、進路決定者による進路講話、体育の授業でダンス発表会、スポレク大会、予餞会、ワックス作業、卒業式、修了式と行事が盛りだくさんです。ゆい教室の生徒達も行事への参加を通して、それぞれ少しずつ変化している姿が見られます。残り少ない日々、インフルエンザやコロナに負けないように体調を整え、手洗い、うがい、マスク着用を心がけ、たくさん笑って免疫力アップに取り組んでいきます。

授業では、これまでの学習の振り返りを行い、年度の最終月である3月へとつないでいく準備をしていきます。ご家庭でも引き続き、ご協力よろしくお願ひします。

授業等の様子



首里城周辺史跡散策 金城町石畳道



首里金城の大アカギ



子ども文化：プラ板作り



家庭科：エプロン作り

2の行事予定

- 6日 (月) スポレク・予餞会
- 7日 (火) 水の授業
2年県内外企業職業講話
- 8日 (水) 火の授業
- 15日 (水) 環境について・ワックス作業
- 23日 (木) 公休日(天皇誕生日)
- 24日 (金) 金の1～5校時まで
15時10分下校
- 27日 (月) 月の1～4校時まで
13時25分下校
- 28日 (火) 火5・6校時、卒業式会場設営、予行演習

体育：ダンス発表会



本番に向けて練習中



恋する
フォーチュンクッキー

エイサー
ダイナミック琉球

令和4年度 家庭の日

絵画ポスターコンクール

- 最優秀賞 宮里日和さん
 - 優秀賞 上原拓巳さん
 - 優良賞 仲村伊織さん
- 受賞おめでとうございます！

手びねりの器を作りました♪



ゆい教室通信

県立真和志高等学校ゆい教室
令和5年3月号

ネクストステージへ！

WBC 日本代表「侍ジャパン」が世界に輝き、歓喜に満ちあふれる中、本日、修了式をむかえました。皆さんには、次の学年へ進級、新しい出発が待っています。1年前と比べて、努力することや我慢すること、挑戦すること、だれかを思いやること、いろいろなことができるようになりました。高校生活の中で、今しかできない貴重な時間を過ごすことができました。春休みも一日一日を大切に過ごし、また、4月に元気な顔で会える日を楽しみにしています。

保護者の皆様、1年間ゆい教室へのご理解ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。次年度も引き続き、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

真和志高校 儀間校長先生より

伊織さん、拓巳さん、日和さん、進級おめでとうございます。この一年、新しい仲間との関わりや先生方のご指導、授業や行事等を通じて大きく成長することができましたね。よく頑張りました。4月には、また新しい出会いがあります。仲間との関わりの中で、皆さんの“善き個性”をもっと輝かせていってほしいと思います。

※3/25(土)～4/6(木) 春休み

4の行事予定

- 7日(金) 前期始業式・就任式(式服)
入学式(午後)
- 10日(月) 学級開き
- 11日(火) 尿検査(～13日)
- 14日(金) HR 役員認証式、対面式
- 20日(木) 校医検診・身体測定
- 21日(金) 新入生歓迎球技大会
- 24日(月)～26日(水) 家庭訪問
- 27日(木) 1年宿泊学習(1日目)
- 28日(金) 1年宿泊学習(2日目)
2・3年校外学習

2・3月の授業等の様子



理科：空気の流れの実験



校外学習：道の駅かでな見学



校外学習：識名園見学



連携学級：ワックス作業



校外学習：郷土の自然環境観察



卒業生のために卒業式会場設営



日教弘の支援事業助成金を頂き本や教材が届きました。

ゆい教室通信

県立真和志高等学校ゆい教室
令和5年5月号

新しい学年がスタートしてもうすぐ2か月!!

ゆい教室では新入生を迎え、3学年そろっての活動や共同学習と、日々活気にあふれています。4月には対面式、新入生歓迎球技大会、1年生の宿泊学習、2・3年生は校外学習とさまざまな行事がありました。行事を通して、だんだん緊張もほぐれ、楽しそうに会話したり、お互い協力したりする姿も見られるようになりました。そろそろ新学期の疲れが出てくる頃です。早寝、早起き、朝ご飯を心がけ、体調を整えて活動していけるようにご家庭でも引き続きご協力よろしくお願ひします。これからゆい教室通信を通して共同学習の様子をお伝えしていきます。

4月・5月行事や授業の様子



始業式・就任式



入学式



LHR：学級目標をみんなで話し合い中



国語表現：ペアで電子辞書を活用し漢字調べ中



職業：大切に育てて収穫したニラを計量・販売学習中



新入生歓迎球技大会 1年と3年連携学級対決



1年宿泊学習
糸満青少年の家



2年校外学習：平和祈念公園



3年校外学習：西原きらきらビーチ



友達や先生と語り合い中



校外学習：名護博物館



沖縄はどこかな？



仏壇を見るとウートート



見て～そうめんチャンプルー♪



「友の会」の方から昔の玩具作りを
教えてもらいました。

授業参観・PTA総会へのご参加ありがとうございました。

ご多忙の中、出席していただき、ありがとうございました。

授業参観では、生徒達が、保護者の方に少しでも良い姿を見てもらおうと頑張っている様子をご覧になることができたかと思えます。さらに、生徒達が成長していけるように職員一同取り組んでいきたいと思えます。今後ともご協力よろしくお祈りします。

6月の行事予定

- 1日(木) 15:50 下校
- 7日(水) 3年総探「進路フェスタ」
- 8日(木) 薬物講話(5・6校時)
- 14日(水) 1年総探職業体験授業
3年個人撮影、「進路フェスタ」振り返り
- 16日(金) 生徒総会(1・2校時) 野球部激励会
防災訓練(6校時)
- 21日(水) 平和学習(1・2校時) / 金の5612
- 23日(金) 慰霊の日**
- 26日(月)～7/7(金) 前期就業体験
- 28日(水) 3年総探スーツ着こなし講座



ゆい教室通信

県立真和志高等学校ゆい教室
令和5年 6月号

前期就業体験はじまる



梅雨が明け、沖縄に本格的な夏が到来しました。

ゆい教室では6月26日(月)~7月7日(金)まで前期就業体験が行われます。就業体験中は、将来の進路や働くことについていろいろな学習をします。また、体験的活動を通して自分自身を見つめ、自分に必要な力について考え、卒業後はどんな生活を送りたいか考える機会にすることをねらいとし取り組んでいきます。



2週間、熱中症対策をして体調に考慮しながら実習を行っていきます。ご家庭でも登校前、帰宅後の健康観察のご協力よろしくお願いします。

授業や行事の様子



生徒総会



平和教育講演会(ワークショップ)



道徳:いのちの大切さについて考える



お腹の赤ちゃんへやさしく歌いかける



国語表現:文のつなぎ方



ゆい教室を代表して発表

英語会話:発表 Kahoot!でゆい教室紹介



器楽



沖縄の音楽



就業体験1日目



7月の行事予定

★6/26(月)~7/7(金)前期就業体験

- 6日(木) 校外学習
- 7日(金) 校外学習
- 10日(月) 月の1246校時
13時25分下校
- 11日(火) 火の1234校時
13時25分下校
- 17日(月) 海の日
- 18日(火) 火の1256交通安全講話(5校時)
15時10分下校
保護者面談①
- 19日(水) 生徒会長選挙
15時10分下校
保護者面談②
- 20日(木) 性教育講話(1・2校時)
保護者面談③
- 21日(金) 金の1256行L
夏季休業前全体集会

※7/22日(土)~8/31(木)夏休み

ゆい教室通信

県立真和志高等学校ゆい教室
令和5年7月号



前期就業体験を終えて いよいよ夏休み!

2週間の前期就業体験が終わりました。ご家庭でのご協力のおかげで、生徒達は最後までやり遂げることができました。ありがとうございました。

いよいよ夏休みです。41日間の夏休みは、長いようであつという間に過ぎてしまいます。計画を立てて有意義な夏休みにしていきましょう。

前期就業体験の様子



ニラの収穫・販売学習



窓ガラスの清掃



腐葉土作り

ブロック運び



買い物学習



公共交通機関の利用の仕方

9月の行事予定

7/22(土)~8/31(木)★夏季休業日

9/1(金) 1校時:夏季休業明け全体集会

新生徒会役員認証式

LHR:真和志フェスティバルの取り組み

9/13(水) 総:(1・2年)アラカルトガイダンス

9/15(金) 15時10分下校

9/18(月) 敬老の日

9/19(火) 月の授業

9/22(金) 金の123(45分授業)

オープンスクール

9/27(水) LHR:真和志フェスティバルの取り組み

9/28(木) 木の1234

前期卒業式(午後)

9/29(金) 金1256行事 LHR

前期終業式

共同学習や行事の様子



生徒会長選挙



交通安全講話(Zoom)

スーツ着こなし講座



数学活用:マッチ棒パズル



沖縄の音楽:三線のテスト



道徳:みらい福祉科のみんなとコミュニケーションワーク

ゆい教室通信

県立真和志高等学校ゆい教室
令和5年9月号発行



～前期終了～



朝夕の暑さも少しずつ和らぎ過ごしやすい季節がやってきました。今日で前期が終わります。学校での活動は、コロナ禍前の活動が少しずつ戻ってきて、体育館で全体集会や総合的な探究の時間にアラカルトガイダンスが行われました。後期には、真和志フェスティバルという大きな行事があります。生徒達は真和志フェスティバルに向けた取り組みを各学級でおこなっています。また、11月には後期就業体験が予定されています。1年生は、2回目の校内実習、2年生は初めての校外実習へ、3年生は卒業後の進路に向けた取り組みをしていきます。2日間の秋休みは、ご家庭でも、前期の様子を是非聞いてみてください。実りの秋、生徒達の心も身体もぐんぐん成長してくれることだと思います。後期に元気な顔でお会いできることを、ゆい教室職員一同楽しみにしています。

9月の授業の様子



1年 LHR：席替え



2年 LHR：真和志フェスティバル準備



3年 LHR：みんなで談笑中



1・2年アラカルトガイダンス



夏季休業明け全体集会



英語会話：「私の行きたい国」



沖縄の音楽：三線（島人ぬ宝）



数学活用



保育基礎：家庭の日ポスター作り

10月の行事予定

- 2日(月) 秋休み①
- 3日(火) 秋休み②
- 4日(水) 後期始業式、後期HR役員認証式
- 19日(木) 真和志フェスティバルの取り組み
リハーサル
- 20日(金) 真和志フェスティバル(校内)
- 21日(土) 真和志フェスティバル・後夜祭
- 23日(月) 振替休日
- 24日(火) 月の授業
- 27日(金) 真和志高校創立記念日、
新人大会等激励会

ゆい教室通信

県立真和志高等学校ゆい教室

令和5年11月号 🍂

真和志フェスティバル絆深まる

ゆい教室では、10月5日より後期が始まりました。今年はい場制限なしで真和志フェスティバルが2日間開催されました。1年次は、舞台の部で『M-ステ』と題し、クラスのみんなで練習を重ねダンスを披露しました。2年次は、SDGsを意識した「キーホルダー・アクセサリ」製作をしました。大好評でお客さんが次から次に入場され、生徒からは「忙しかったのですが、頑張りました。」という声が聞かれました。3年次は、かき氷とぜんざいの出店をし、テント設営、ポスター作り、販売までやり遂げることができました。真和志フェスティバル後には、後夜祭もあり、みんなで一つになって行事を作り上げたことで、絆も深まり喜びに満ちあふれた表情をしていました。

11月9日からは後期就業体験が始まります。生徒達は、前期就業体験を生かし、卒業後の進路について考えたり、健康管理や身だしなみ、マナーについて気をつけたりしながら、目標を立てて取り組んでいきます。ご家庭でも体調管理へのご協力や激励等よろしくお願い致します。

真和志フェスティバルの様子



真和志フェスティバル 心に響け！「島人ぬ宝」(器楽合奏)

授業で取り組んだ曲を約90名で心をひとつに演奏を披露♪



1年「M-ステ」みんなでピーマン体操



3年かき氷・ぜんざい販売

いらっしやいませ〜



2年 キーホルダー・アクセサリ製作 レジン固めるライト係

11月の行事予定

- 3日 (金) 文化の日
- 9日 (木) ~22日 (水) 後期就業体験
- 13日 (月) ~17日 (金) グリーンデー募金
- 23日 (木) 勤労感謝の日
- 24日 (金) 45分授業 15:30 下校
- 29日 (水) 芸術鑑賞

タイムス第71回全琉小・中・高校 図画・作文・書道コンクール

【図画の部】

最優秀賞：宮里 日和さん

優良賞：上原 拓巳さん

ご入賞おめでとうございます。



ゆい教室通信

県立真和志高等学校ゆい教室

令和5年12月号



今年(2023年)のまとめ

師走を迎え、2023年も残りわずかとなりました。ゆい教室では、後期が10月4日から始まり、真和志フェスティバル、芸術鑑賞会(津軽三味線あべや)、マナー講座、人権講話、献血講話、M3チャンピオンと全体での行事や学年行事に参加し、2023年充実した学校生活を過ごすことができました。また、11月9日～11月22日までの2週間は、後期就業体験をしました。就業体験中は、それぞれ目標を立ててがんばりました。周りの先生方や友達からの声かけに挨拶も上手になりました。就業体験を通して、卒業後のことや働くとはどういうことか考えることができました。後期就業体験後には、頑張ったこと、これから自分に必要なことを発表し合い、振り返りました。2024年も、一人ひとりが精一杯自分の力を出し、輝いてくれることを願っています。

後期就業体験の様子



校内実習:ニラ販売学習

校内実習:水やり

校外実習:パン販売

校外実習の振り返り作成中

共同学習や行事の様子



総探:マナー講座



人権講話:「夢をあきらめない」



3年:献血講話



芸術鑑賞会:津軽三味線あべや



ダンス発表会

1月の行事予定

12/26(火)～1/8(月) 冬季休業

1/9(火) 冬季休業明け集会(私服)

1/17(水) 水 12345 授業 15:10 下校

1/18(木) 木 234 授業 12:25 下校

1/19(金) 金 12346 授業 15:10 下校

1/23(火) 火 12345 15:10 下校

1/24(水) 1.2年進路内定者講話

3年金融講話

保護者の皆さまへ

お忙しい中、進路面談へ足を運んでくださり、ありがとうございました。引き続き、子ども達の更なる成長に尽力していきますので、ご協力よろしくお願ひします。

ゆい教室通信

県立真和志高等学校ゆい教室
令和6年2月号

一日一日を大切に

「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」といわれるようにあっという間に1月が終わり、暦の上では立春を迎えました。後期の後半は、進路決定者による進路講話、金融講話、スポレク、予餞会、卒業式、修了式と行事が盛りだくさんです。授業では、これまでの学習の振り返りをしながら、一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。ご家庭でも引き続きご協力よろしくお願いします。

行事や授業等の様子



冬季休業明け全体集会



2年総探:進路ガイダンス



1年体育:持久走



環境学習(公園の自然観察)



スポレク:バレーボール



スポレク:集計係



試合の合間にみんなで談笑中

2の行事予定

- 6日 (火) スポレク・予餞会
- 7日 (水) 水1 2 総総水3 4
1年職業を知る
2年県内外企業職業講話
3年環境について・ワックス作業
- 9日 (金) 45分授業 15:30 下校
- 11日 (日) 公休日(建国記念の日)
- 12日 (月) 振替休日
- 14日 (水) 環境について・ワックス作業
- 15日 (木) 月の授業
- 21日 (水) 金の授業
- 22日 (木) 12563校時 15:10 下校
- 23日 (金) 公休日(天皇誕生日)
- 26日 (月) 1~4校時まで
13時25分下校
- 29日 (木) 1・2校時、卒業式会場設営、
予行演習

令和5年度 家庭の日
絵画ポスターコンクール
優秀賞 上原拓巳さん
受賞おめでとうございます!

【参考資料4】

沖縄県立高等学校における沖縄県立特別支援学校高等部分教室 (ゆい教室) 設置に係る調査研究実施要綱

令和3年3月31日 教育長決裁

第1 趣旨

共生社会の形成に向け、インクルーシブ教育システムの構築を図るため、沖縄県立高等学校（以下「高等学校」）における障害のある生徒と障害のない生徒が共に学ぶ仕組みと、一人一人の教育的ニーズに応じた学びを保障するための調査研究を行うため、沖縄県立特別支援学校高等部分教室（以下「ゆい教室」という。）を設置し、調査研究を実施する。実施にあたり、設置の目的及び内容等については、本要綱の定めるところによる。

第2 調査研究の目的

ゆい教室設置における以下の事項について検証を図り、より効果的な分教室の在り方について調査研究することを目的とする。

- 1 共生化の拡大 インクルーシブ教育システムの構築
ゆい教室に在籍する生徒と高等学校に在籍する生徒が共に学ぶ場所が共有されることで、同年齢の生徒とのつながりをより深めることができるようになる。
- 2 理解啓発の推進
生徒や職員の意識が深まることにより、高等学校での理解や支援が受けやすく、障害に対する理解が進むようになる。
- 3 障害のある生徒と障害のない生徒の学びを保障
特別支援学校学習指導要領に基づき、高等学校の教育課程と関連させながら、柔軟な教育課程の編成を行うことにより、お互いの学びを保障する指導体制の在り方を研究する。
- 4 特別支援学校のセンター的機能の充実
ゆい教室を設置することにより、設置高等学校及びその周辺地域にとって、特別支援教育に関する相談・支援が身近なものとなり、地域の特別支援教育のセンター的役割を果たすことができる。
- 5 多様な学びの場の拡充
支援の必要な生徒の学びの場の連続性の提供になる。
現在、高等学校在籍の支援の必要な生徒は、通常学級での指導や特別支援教育支援員の支援をうけている。特別支援学校の分教室を設置することで、同環境内で障害の状態に応じた多様な指導方法や支援を確保できる。

第3 調査研究実施期間

実施期間は、令和3年4月1日から令和6年3月31日までとする。
ただし、当該実践、検証期間を単年度とし、継続を可能とする。

第4 研究の内容

次の研究内容にそって、その成果や課題等を明らかにし、より効果的なゆい教室の在り方について調査研究する。

- 1 学びの場の多様性について、関係者の継続的意識調査
- 2 管理者の異なる学校間の条件整備のあり方
- 3 ゆい教室における教育課程の編成と適正な施設整備及び施設の有効な活用方法

- 4 特別支援学校（本校・ゆい教室）と高等学校との連携を通じた交流及び共同学習の推進に係る研究
- 5 ゆい教室におけるセンター的機能（高等学校への支援等）の充実
- 6 実践の課題整理や分析、対応検討
- 7 調査研究モデル校において研究が必要と捉えている事項の研究

第5 調査研究の運営

- 1 調査研究モデル校は、県教育委員会と密接な連携を図り、検証委員会等において、委員等の指導助言のもとに調査研究を行うものとする。また、検証委員会設置要項は別に定める。
- 2 調査研究対象者は、知的障害の状態が中度・重度であり、本人や保護者が希望するものとする。
- 3 調査研究モデル校は、設置高等学校における研究体制を整備し、計画的・継続的に研究実践を進めるものとする。
- 4 研究実践にあたっては、学校経営の中に位置づけて考え、学校や地域の実態に即して研究を推進するものとする。

第6 調査研究の報告

調査研究の中間及び終了時に、その成果と課題等について報告書を作成する。

第7 雑則

この要綱に定めるもののほか、沖縄県立特別支援学校高等部分教室（ゆい教室）の調査研究モデル校に係る実施に関して必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、令和3年4月1日から施行する。

【参考資料 5】

沖縄県立高等学校における沖縄県立特別支援学校高等部分教室（ゆい教室） 設置に係る調査研究実施要領

令和3年3月31日
教育庁県立学校教育課長 決 裁

1 趣旨

この要領は、沖縄県立高等学校における沖縄県立特別支援学校高等部分教室（ゆい教室）設置に係る調査研究実施要綱第4研究の内容の規定に基づき、沖縄県立高等学校における沖縄県立特別支援学校高等部分教室（ゆい教室）設置に係る調査研究の実施に関して必要な事項を定めるものとする。

2 三者連絡会議の設置・運営

(1) 県教育庁県立学校教育課は、当該事業を円滑に遂行するため、主管課となり、県立真和志高等学校、県立島尻特別支援学校の3者による連絡会議（以下「三者連絡会議」という。）を設置する。

(2) 三者連絡会議は、県立真和志高等学校と県立島尻特別支援学校の校長、教頭（副校長）等をもって構成する。

(3) 三者連絡会議の役割は、次のとおりである。

① 県立島尻特別支援学校真和志高等学校分教室（以下「ゆい教室」という。）を多様な学びの場として、県立真和志高等学校内の施設に設置し、ゆい教室に在籍する生徒と県立真和志高等学校に在籍する生徒が共に学ぶ場所が共有されることで、同年齢や異学年の生徒とのつながりをより深めるための具体的な交流及び共同学習の実践を図り検証すること。併せて、ゆい教室と県立島尻特別支援学校本校との交流及び共同学習についても実践を図り、検証を行う。

② ゆい教室の設置に係る諸手続きの在り方や施設設備等の条件整備の在り方について検証を行う。

③ ゆい教室における教育課程の編成と施設設備を有効に活用する方法を検証する。

④ 沖縄県立高等学校に設置された沖縄県立特別支援学校高等部の分教室の設置が、今後のインクルーシブ教育システムの構築に向けた多様な学びの一つであることを検証し、今後の在り方を提言する。

(4) 三者連絡会議は、原則として2ヶ月に1回の定期で会議を行う。

(5) 三者連絡会議に係る旅費等は、県教育庁県立学校教育課が支弁する。

3 調査研究の検証期間

実践、検証期間を単年度とし、継続を可能とする。

4 関係3者の役割

(1) 県教育庁県立学校教育課

① 事業展開にかかる総括

- ア 当該事業の方針を明示し、県教育委員会の教育施策の一つとして事業の遂行を円滑に行う。
- イ 当該事業の主管として、事業の計画、実施に係る庶務を担い、関係学校と連携を図りながら、事業の遂行を行う。
- ウ 当該事業の取組実績や評価をまとめ、事業の広報や公開授業の企画、報告書のとりまとめを行う。
- エ 県教育庁各課と連携し、円滑な事業展開を図る。特に、分教室設置に関することについては、総務課と調整を図る。

② ゆい教室に係る管理・運営への指導助言

- ア 教育課程等に関すること
- イ 県教育庁教育支援課と連携し、施設設備等に係る予算の調整と執行を図る。

(2) 県立島尻特別支援学校（本校、ゆい教室）

① ゆい教室在籍生徒の個に応じた指導の充実

- ・ゆい教室において、在籍する生徒の特性と教育的ニーズをふまえて個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成し、保護者との連携のもと、生徒の指導・支援の充実を図る。

② ゆい教室の教育課程の編成に係る研究

- ・ゆい教室が県立真和志高等学校及び本校との交流及び共同学習の充実を念頭に、教育課程の編成の工夫を図り、より良い教育課程の在り方について研究を行う。

③ ゆい教室における交流及び共同学習の充実

- ・ゆい教室は、県立高等学校の教育環境の中で、「共に学び、共に生きる」ことの具現化を目指し、授業や行事等の学校教育活動全体をとおして具体的な取組を行い、授業改善を含め、より良い教育活動の充実を図りながら、具体的な交流及び共同学習に係る成果と課題を明確にし、実践の充実に努める。併せて、公開授業等による啓発活動を行う。

④ 事業に係る成果と課題の情報整理と報告

- ・当該事業に係る成果と課題を整理するとともに、生徒や保護者の意識の変容等を調査し、得られた情報を報告書作成に向けて提供を行う。

⑤ 本校における分教室の人的管理、物的管理に係る取組を進め、成果と課題を明確にして検証を行う。

(3) 県立真和志高等学校

① ゆい教室との交流及び共同学習に係る取組の充実

・日常の授業や行事等で、可能な限りゆい教室に在籍する生徒らとの交流及び共同学習を積極的に行い、成果と課題を整理する。

② 事業に係る成果と課題の情報整理と報告

・当該事業に係る成果と課題を整理するとともに、生徒や保護者の意識の変容等を調査し、得られた情報を報告書作成に向けて提供を行う。

5 事業の総括事項

事業を遂行する中で、以下の観点について情報を収集し、教育的側面、管理的側面について成果と課題を整理し、今後の事業展開について整理を図る。

(1) 教育的側面

① 県立真和志高等学校とゆい教室の教育活動の連携について

② 保護者のニーズと教育活動の均衡について

③ 指導形態(複式学級等)の改善工夫について

(2) 管理的側面

① ゆい教室生徒・職員の管理体制について

② 教職員配置の適正化について

③ 初期費用・維持経費等の財政負担

④ 沖縄県教育委員会との事務手続きの適正化について

この要領は、令和3年4月1日から施行する。